

# 事業報告書

平成29年度

社会福祉法人 あかりの家  
理事長 西尾 淳

# 2017(H.29)年度 障害者支援施設 あかりの家 事業報告書

2018. 3. 31 現在

## 2017(H.29)年度 障害者支援施設 あかりの家 実施事業

事業名		事業開始年月日		
①	障害者支援施設あかりの家	'86(S.61). 4. 1	県指定	
	施設入所 生活介護			
②	短期入所	'86(S.61). 9. 1	県指定	
③	地域生活支援事業 日中一時支援事業(日中短期)	'07(H.19). 4. 1	6市2町?委託事業	
④	障害児等療育支援事業	兵庫県	'07(H.19). 4. 1	県委託事業
		姫路市	'08(H.20). 4. 1	姫路市委託事業
⑤	被虐待障害者一時保護支援業務	高砂市	'13(H.25). 6. 1	高砂市委託事業
		播磨町	'14(H.26). 4. 1	播磨町委託事業
		稲美町	'17(H.29). 3. 1	稲美町委託事業

- <他>①グループホーム「希望山荘日笠」('02(H.14).10.1)「オリーブの家」('15(H.27).10.1)「友愛の家」('17(H.29).4.1)の連携施設  
 ②連携施設「友愛の家」('17(H.29).4.1)との一体的な運営  
 ③ 附置施設「ひょうご発達障害者支援センター クローバー」('03(H.15)12. 1)  
 ④わかば学園(加古川)グループホーム連携施設('12(H.24). 2)  
 ⑤発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修 受入施設('14(H.26). 5)  
 ⑥高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.26). 11)  
 ⑦日本自閉症スペクトラム学会 資格認定実習施設('15(H.27). 1)

## I 利用者状況('18年3月31日現在)

### あかりの家利用契約者の分類(あかりの家独自の分類)

	呼称	
あかりの家 所属として 以下のカウ ント対象	①入所者	日中は生活介護
	②通所者	生活 介護 ⑥通所 ⑦ロングショート等は、行政と調整の上、夜はショート、日中は生活介護 で契約。あかりの家に所属。通所者として扱い、保護者会に所属。
非あかりの 家所属 カウント対 象とせず	③ショート生活介護	ショートステイ利用者の内、有期療育目的等のケースは、行政と調整し、 泊はショート、日中は生活介護として契約。あかりの家には所属しない
	④ショートステイ	泊を伴う
	⑤日中一時	日中のみ

以下のカウントは、「あかりの家に所属」の、上記①、②を対象とする。

### 1 定員と現員

定員	現 員(あかりの家に籍を置く利用者)	
40名	施設入所	40(男31、女9)
	生活介護	48(男39、女9) 入所者;40(男31、女9) 通所者8(男8、女0 ; 内、GH友愛の家から4、ショート系1)

内、入所利用者1名は、日中、WH高砂の「就労B」利用。(あかりの家の「生活介護」にも籍あり)  
 通所利用者1名は、週1日、WH高砂の「生活介護」を利用。

2 利用者出身地(受給者証発行市町) 2018年3月31日現在

実施機関	利用者数		実施機関	利用者数	
	入所者	通所者		入所者	通所者
高砂市	4	3	神戸市	9	
加古川市	13	3	尾崎市	2	
播磨町	4		名古屋市	1	
姫路市	5		枚方市		1
小野市	1		神戸町		1
加東市	1		合計	40	8

左表ではカウントしていない、(あかりに籍を置かない生活介護契約者(分類の③「ショート生活介護」))

‘18年3月末現在、4名

(高砂市、加古川市、姫路市、岡山県)

‘17年度途中で契約し解除した利用者1名(宍粟市)

〈入所〉入 9/1 女姫路、11/1男播磨町、3/1男加古川

退 4/4入所Fさん(男)亡、10/22 男加古川

〈通所〉入 4/1 男高砂、男加古川、9/1 男神戸町

退 8/31 女姫路(入所へ)

3 利用者年齢 ( )は、通所者で内書 3月31日現在

年齢	10代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		合計(人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69		
男	1 (1)	1 (1)	2 (1)	3 (2)	1(1)	7	17(2)	6	1	0	0	39(8)	
女	0	0	1	0	0	0	4	3	0	1	0	9	
合計	1 (1)	1 (1)	3 (1)	3(2)	1(1)	7	21(2)	9	1	1	0	48 (8)	
(計)	1 (1)	4(2)		4(3)		28(2)		10		1		48 (8)	

最年少19歳(前年度比-2)、最年長63歳(前年度比+1)、平均44.3歳(前年度比+0.1)

4 障害等の程度 ( )は通所者で内書

(1) 知的障害の程度(「療育手帳」の判定による)

	重度	中度	軽度	合計(人)
男	38 (8)	1	0	39(8)
女	9	0	0	9
計	47(8)	1	0	48(8)
比率	97.9%	2.1%	0%	100%

(2) 障害支援区分 平均支援区分 5.8

	区分6	区分5	区分4	区分3	合計(人)
男	31(5)	5(1)	3(2)	0	39(8)
女	5	4	0	0	9
計	36(5)	9(1)	3(2)	0	48(8)
比率	75%	19%	6%	0%	100%

(3) 自閉症または自閉的傾向を有する者(入所時の諸書類などをもとに集計)

	男	女	計
人員	37(7)/39(8)	5/9人	42(7)/48(8)
比率	94.9%	55.6%	87.5%

(4) 重度加算

	入所		通所		総計
男	28人	90%	5人	63%	
女	8人	89%	—	—	

(5) その他の障害

		男	女	計	総計
肢 体	手帳所持	0	0	0	
	不所持	0	0	0	

5 入退所の状況(あかりの家在籍者) ※あかりの家開所'86年4月、分場開設99年4月

年度	86	87	88	89	90	91	92	93	94 ~98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	計
入所	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	73
退所	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	33
通所	/	/	/	/	/	/	/	/	/	11	0	0	1	/	/	/	/	/	1	0	1	0	2	3	0	1	0	3	23
退所	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0	12	/	/	/	/	/	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	16
合入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	11	0	0	1	0	2	1	1	1	1	2	2	0	4	3	0	1	0	6	96
合計	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	12	0	2	1	2	0	1	1	2	1	1	0	1	1	1	3	49

※「通所」①あかりの家四郷分場；'99年4月開所。WH開設に伴い'03年3月閉鎖（形式上退所）

②新体系に移行した'08年度より、通所利用者受入れ。

③あかりの家に籍を置く、日中を生活介護契約の短期入所利用者等は、通所者として計上。

(1)の分類参照)

なお、あかりの家に籍を置かない、日中を生活介護契約のショート利用者(上の表では計上していない)の'17年度実績は3名。

6 在籍年数(通所者含。通所から入所等への移行者は通算。4/1入所は翌年3/31で在籍満1年とする)

年	32	31	30	29	28	27	26	25	24~14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	計
男	14	1	2	2	2	2	1	1	0	1	0	2	1	1	1	0	0	2	1	1	0	1	3	39
女	2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	9
計	16	2	3	2	3	3	1	1	0	1	0	2	1	1	2	0	0	4	1	1	0	1	3	48

全利用者平均在所年数21.8年 / 男子平均年数21.6年 / 女子平均年数22.4年  
 入所者平均在所年数 24.6年 / 入所男平均年数25.2年 / 入所女平均年数22.4年  
 通所者平均在所年数 7.7年 / 通所男平均年数 7.7年 / 通所女平均年数 — 年

II 生活の概況

1 日課(月~金)

6:30	起床
8:00	朝食
8:30	歯磨き、清掃(引継ぎ)
(9:15)	職員引継ぎ)
10:00	ランニング、お茶・牛乳
10:30	作業
12:00	昼食(一部作業班は外食)
13:30	作業
15:15	ティータイム
15:30	入浴(毎日)・自由時間
17:30	夕食
21:00	就寝

土日祝、ランニングや作業なし  
 非帰省日の土曜日にはクラブ活動実施  
 隔週で、週末帰省日設定(希望者)

2 余暇活動

- ①夜の時間帯 絵描き、工作、パズル、雑誌、ドリル等の学習、トモニ100並べ、クロスステッチなど。
- ②担当者による任意の買物や喫茶店行、散髪、作業工賃での自販機やコンビニでの買物、喫茶店行等
- ③ボランティアグループ・秋桜会による「あかり喫茶(飲み物とケーキ。月1回、第三金曜日中心)
- ④祝祭日や週末など、休日のドライブや散歩及び喫茶店などの外出

3 療育活動

(1)トモニ活動・・・トモニ活動チーム支援員7人を中心に活動(13年度より実施)

トモニ療育研修で、河島先生・高橋先生から教えて頂いたことを日常の中で実践。

- ①平日課題学習 数字(100並べ、タイル並べ)、時計、お金、本読み、漢字、折り紙、書き取り等

月曜日と木曜日の午後に、マンツーマンでの課題学習を行う。月曜日は一年を通してAさん、木曜日は3名の利用者の課題学習を行った。

②休日料理活動

今年度は中止となり、活動はしていない。

(2) 体操活動

毎水曜日、隔週土曜日 13:30~15:00 に活動。ダイナミックリズム(DR)や模倣運動を中心に実施。療育的な意味に加え、職員育成、特に新人職員研修を狙っている。現場において集団全体を見る力をつける機会としても考えている。目の前で、利用者の変化を実感しやすい活動になっている。

4 クラブ活動

	参加者	実施状況	指導者	実施内容
華道	5人	月2回 隔週、土曜 午前1時間	松尾豊華先生 (ボランティア)	92年10月開始。松尾先生(小原流家元)購入の花を先生指導のもと活ける。活けた花は玄関や交流ホーム、クローバー、事務所等に飾る。
音楽	8人	月1回 (8月は休み) 土曜 or 日曜 13:30~1時間	永江きよみ先生 (ボランティア)	98年10月開始。音楽療法として「音楽の特性を生かして、心と心を響かせあう。」宮本啓子音楽療法を勉強中の永江先生が中心になって始まる。ダンス、歌、リズムなど体感するものや楽器等を通じて表現するものなど幅広い。
アート	3人	月1回 木曜日 午後1時間	安部武先生 (ボランティア)	99年1月開始。粘土、自由絵、また季節的な凧作り・面作りなどの創作活動を実施。1月高砂市美術展出店(奨励賞)。交流ホーム1F(04. 10より)をアトリエとして使用。2013年8月より、先生のご都合で活動が木曜日に変更となる。

5 行事関係

(1) 一般行事(主な行事)

月	行事名	月	行事名
5	第11回のじぎくスポーツ大会(三木市)	12	第31回高砂マラソン
6	第29回ぱんたん親善運動会(加古川市)		第26回ナイスハートバザール(高砂アスパ)
8	第27回あかりまつり		忘年会(保護者参加)
11	親子一泊旅行(徳島・鳴門方面)	1	もちつき会
	加古川ツーデーマーチ		
	第26回ぱんたんゆうあい文化祭(見学)		

※ 親子一泊旅行 日程 11月17日(金)~11月18日(土)

参加者 ;利用者 41名 保護者 32名 職員 31名(計、104名参加)

行き先 ; 淡路、鳴門方面

(2) グループ別小旅行「レインボーデイ」

小グループ(原則利用者2に支援員2)に分け、各担当の企画で県内外を日帰り旅行。「療育の成果を生活に返していく」趣旨で、公用車での外出を原則公共交通機関(電車、バス)利用に変更。

当年度は全員公共交通機関を使用して実施。

北野工房のまち、須磨海浜水族園、神戸布引ハーブ園、みとろ荘、神戸どうぶつ王国、R&M(食品サンプル作り)、きらきら☆ぼし(スクラップブック作り)、ネコカフェ cat café nyanmy、神戸メリケンパークオリエンタルホテル、京都水族館、姫路セントラルパーク、パン教室 チェリーブロッサム、道の駅 あいおい白龍城、生田神社、ヤマサ蒲鉾

(3) スポーツ行事

① 播淡親善運動会 5/26(金) 於、加古川運動公園陸上競技場 5人参加

② のじぎくスポーツ大会(5月21日、28日三木市防災総合運動公園陸上競技場) 保護者応援・見学

100m走: 1人、走り幅跳び: 1人、フライングディスクアキュラシー(5M): 5人が出場。

フライングディスクアキュラシー(5M) 金メダル0人 銀メダル2人 銅メダル1人

- 走り幅跳び 銀メダル1人
- ③第31回高砂マラソン (12月3日、加古川河川敷マラソンコースにて実施)  
5km 2人、2km 3人 計5人出場
- ④加古川ツーデーマーチ11/12日) 利用者3人(大内、正木、高木義)参加 (3回目参加)

(4)あかり喫茶

帰省日のない最終金曜日午後、ボランティアグループ秋桜会(3~6人)の応援で、毎月実施。  
随時グループで参加し、アサヒ班は午後の作業を早めに切り上げて参加。  
写真で飲み物(コーヒーやジュース、コーラ等)を選び、ケーキ類も何種類から選ぶ。

6 設定帰省等

- 保護者会の希望により、開設時から毎週末2泊3日実施。3年目途中より隔週2泊3日帰省、  
05年度より隔週1泊2日となる。帰省は希望により自由、期末帰省を更に短くする。
- ①週末帰省(隔週末1泊2日原則) 毎週末帰省5人程度、2泊帰省人6程度、帰省なし7人程度  
②期末帰省(夏季4日間、冬季6日間、春季4日間) 期末帰省なし8人

7 生活環境の整備、備品等の購入設置

- (1) 環境整備; 保護者会協力の下、職員、利用者、保護者で年1回 (今年度は未実施)  
(2) 備品の購入; 防水シート 15セット 13.8万円

Ⅲ 作業の概況

1 作業内容(月曜日午後、火曜日から金曜日の午前午後作業) 利用者40名 通所8名 計48名

(1) 施設内作業・3月末現在(4作業種35人(通所5人含む))

割り箸班	10人	軽作業棟。割り箸の袋詰め等。(株) マスキ 作業提供。
さをり織り班	6人	さをり作業棟。さをり糸(一部播州糸、帆布糸)を利用して反物織り。製品化は、さをり製品化ボランティア「さをりの会」(保護者、隔週実施)や職員による。
軽作業班	10人	軽作業棟。アース製薬商品の分別、リサイクル作業。(有)ハタリサイクルファクトリー作業提供。
プラグ班	11人	さをり作業棟。電気部品組み立て。(コンタクト ロックレバー 端子台 受け金ホルダー など)(有)米田製作所作業提供。

(2) 施設外作業・3月末現在(4作業種12人(通所1人含む)+公園清掃(重複))

マスキ班	6人	(株) マスキの工場の一室を借り、割り箸袋詰め等の作業。徒歩または公用車で職員1人引率。夏場は暑さ対策の為、あかりの家内療育室での作業を実施。
旭班	5人	(株) 旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備等の作業を行う。弁当はあかりの家より職員配達していたが、7月より外注弁当を利用。
WH高砂	1人 1人 重複	WH利用者として、クリーニング作業に従事 1人が自転車自力通所(就労継続B型)、1人が週1回家庭より通所(生活介護)

2 作業班強化

(1) 作業班整備

①年度末物品購入の実施

大きな目的としては、作業環境の整備として、より利用者が働きやすい環境、効率的に作業に取り組める環境の為に、各作業班に必要な物品購入を募り、精査して購入を実施。

②旭班

一昨年度11月より旭班として立ち上げ。(株) 旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備の作業を行っている。室内作業による作業環境の改善、作業内容としても箱折り、のし折り、ダイレクトメールの宛名はり、サンプル商品の袋詰めなど多様な作業内容を行っている中、一般企業との

連携という意識と強く持ち、ミスなく作業に取り組めるように環境整備や、作業工程の見直しなどを随時行いながら取り組んでいる。

(2) 生産、報酬、消費サイクルの展開

工賃を消費サイクル（労働→報酬→消費）に乗せるための活動。形態は、作業班毎に工夫。（班毎に、あるいは個別に、コーヒーのマグネットをトークン、出来高制、特別ボーナスなど）

(3) 作業班編成（利用者編成）

利用者の高齢化および体調面への配慮、また作業ノルマや作業種別に応じて作業メンバーをその都度変更。体調面への配慮としては、利用者個別判断が必要であり、暑さ、寒さ、アレルギーなどへの配慮を考えつつも、より利用者が意欲的に活動できる作業提供を考え実施している。

※ 日中活動として48名の利用者が作業を行っている。加えて短期入所、日中一時支援の利用者を加えると50名以上の利用者が活動する状況であり、現状の環境下では各作業場が飽和状態である。

3 福祉バザー、作業製品展示・販売等（昨年度）

月1回	チャレンジショップ きずな	東播磨県民局	2012/4/4 県民局主導の下オープン。東播磨圏域の授産製品販売ショップ(常設)。あかりは月1回、月曜日に出店。利用者に参加。→2015年度は不参加。9月に試験的に行われた共同販売には参加。
5/21	まほろばカーニバル	三木光司園	利用者、さをり織り商品販売。
7・10・3 月	きずな ふれあいマーケット	東播磨県民局	利用者、さをり織り商品の販売
11/12	第27回みんなの社協フェア	高砂文化会館	さをり織り商品の販売。利用者に参加。
12/9.10	第26回 あかりの家 ナイスハートバザール	アスパ高砂	さをり織り商品の販売。利用者の実演とお客さんの体験コーナー設置。パネルによるあかりの家紹介。
8/30	Aspa 高砂福祉バザー	アスパ高砂	リハビリセンター主催の授産製品販売活動 →職員不足等もあり、今年度は不参加。
6/21 ・ 10/18 ・ 3/7	きずな 手作り品市	アスパ高砂	東播磨ネットワーク主催の授産製品販売活動。利用者と一緒にさをり織り商品の販売。H28年度はあかりの家が調整担当を行った。 →職員不足等もあり、今年度は不参加。

4 さをり織り委託販売

	場所	開始年月日	販売傾向	経過
ヘアーサロン「采」	姫路市 呉服町	2009/9/12	シュシュ、ストール等	退職職員が、通っているヘアサロンを紹介。姉妹店にも商品を置いて下さっている。現在、売れ行き把握できておらず、商品の補充もしていないので、撤退を検討。
高砂ブランド協会「ちり」	高砂市高砂 町浜田町	2010/2/25	ポーチ、キーホルダー等	主任の個人的な地域活動を通して紹介。高砂の文化を発信するアンテナショップ。

5 職場見学等 福祉バザーなどに参加。ナイスハートバザールでは実演もする。

6 作業収入と工賃支給

作業収入；計2,429,579円…内、工賃支給；計1,095,000円、軍手、工具等の直接経費395,736円  
作業工賃基準・・・1人 21,600円/年支給。

但し、外勤の旭班は27,600円/年、プラグ作業延長組33,600円/年（作業時間6時間）

※作業工賃基準→1,800円/月 旭班2,300円/月 プラグ作業延長組 2,800円/月

→工賃引き上げ（300円）

#### Ⅳ 健康管理

##### 1 入通院の状況

科名	通院		入院	
	延人数	延日数	件数	延日数
内科	90	129	0	0
外科	7	10	0	0
整形外科	23	32	0	0
歯科	512	536	0	0
眼科	15	16	0	0
皮膚科	40	52	0	0
耳鼻科	26	31	0	0
精神科	51	73	0	0
婦人科	10	11	0	0
肛門科	25	26	0	0
その他	17	26	1	4
計	816	942	1	4

通院については、月ごとの集計を単純加算。従って、月をまたいだ通院は二重カウントの形になり「延人数」として表記。

入院は、把握可能なため二重カウントはなく、「件数」として表記。

入院1件は、左精巣摘出手術のため泌尿器科に入院

<精神科通院>は、幼少期からの主治医に保護者によって通院することが原則（嘱託医の方針）。保護者による通院はカウントしていないため、通院数は少ない。

##### 2 常用服薬者

		男	女	計
精神科薬	てんかん	17	3	20
	安定剤・眠剤等	17	6	23
内科系薬（整腸・肝臓・貧血、便秘等）		23	8	31
皮膚科系薬（水虫・湿疹等）		15	3	18
整形外科系薬（Ca剤・骨粗しょう症等）		1	0	1
眼科系薬（アレルギー）		5	0	5
延べ総計（2重カウントあり）		78	20	98

内科系では、半数の22人が便秘薬を服用。

##### 3 健康診断・身体測定等

月	実施内容	月	実施内容
4	身体測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	10	身体測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）
5	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	11	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）
6	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	12	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導） 健康診断（利用者と変則勤務職員）
7	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導） 健康診断（職員）	1	身体測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）
8	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	2	体重測定、歯（歯石除去、歯磨き指導）
9	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き指導）	3	体重測定、歯科（インフルエンザ流行の為中止）

健康診断；利用者は12月13日にあかりの家にて実施（加古川総合保健センター）

検診科目（身長、体重、腹囲、血圧、尿、胸部レントゲン、採血、心電図、内診）

##### 4 ランニング

月～金、朝の引継ぎ後（作業前）、9時30分頃から10時00分頃まで、準備体操、ランニング、お茶飲み実施。（マスク班を除く外作業の利用者は不参加）。自立グループ用のコースも継続。腰痛がある人は、ウォーキングに変更。

##### 5 ウォーキング班・ダイエット班(1F企画日課)

起床後、職員1人と一部の利用者で、ダイエット目的でウォーキングを実施。（15年1月より）

16年3月、ダイエット目的を外して、1人の職員と3人の利用者で“朝の空気を吸う”ウォーキングに切り替える。なお、ウォーキングマシン等で、ダイエット目的の班も組んでいる。



## 6 整体（健康・医療の方向から）

毎週木曜日、居室にて13：00から2時間、腰痛の人や筋緊張の高い人などを中心に6人が、永田雄三先生（柔道整復師）にマッサージをしてもらっている。（Ⅵ1の（5）参照）

## 7 その他

11/10 インフルエンザ予防接種。保護者の希望をとり、2人を除いて全員が接種、罹患者29人。今年度は、ノロウイルスに感染することはなかった。

# V 支援部・調理部からの年度総括

## <1Fフロア>

### 1. 利用者

- ・入所者20名、通所2名の合計22名の利用者所属となった。
- ・4月3日に腸閉塞からの嘔吐による窒息での事故死で1名の利用者が亡くなられ、以降入所者19名の所属となるが、9月に女性1名入所、11月に男性1名入所となり、21名の所属で年度を終えている。
- ・骨粗鬆症、嚥下や咀嚼、高齢化への、介護的な支援が徐々に必要となってきた。（継続課題）

### 2. 職員

- (1) 新任を1名迎え、女性9名、男性4名の13名で運営した。（プラス パート職員3名）  
バンディオンセ加古川との契約における男性職員1名も1F所属として、月曜のみに日勤帯、火～金は遅番勤務でフロア支援に取り組んでもらった。
- (2) 年度途中、職員1名の体調不良により、勤務体制の調整等が必要な時期があったが、フロアメンバーで協力しつつ、業務を分担して取り組む。1Fのみでなく2Fへの協力も求め、支援部での協力体制をもち運営した。

### 3. 主な活動内容

#### （結果1 GHへの移行）

昨年度末の集中取り組みを経て、4月よりAさんがグループホーム友愛の家へ移行され、自立的な生活の実現に向けて取り組んでいる。利用者はもちろん、保護者、職員の3者とも初めての経験であり、チャレンジしていくと言った意識を共通にもったうえでの取り組みを展開している。

#### （結果2 かくたつ療育研修）

Bさんケース会議より「内面を考える」といったテーマから見えてきた課題。  
“生きづらさ”への共感。本当に難しい利用者→“生きづらさ”の問題大きい  
あかりの家の難しい利用者→行動障害が激しい  
ここの整理があかりの家の抱える課題をクリアにしたと思っている。  
行動障害にばかり目が向く（表面的な問題）のではなく、その奥にある“生きづらさ”への理解、共感からの支援を目指したいとったことを確認している。

#### （結果3 トモニ全体研修）

昨年度に引き続きフロアでEさんFさんGさん3名の利用者研修を実施。それぞれがチームとして活動し、これまでの担当者中心になって学ぶ研修から、全体を巻き込んでの研修として機能し、チームでの取り組み、他のメンバーの視点や思考、取り組み方など多方面から参考、学びになることが多い研修となった。研修での学びを日々の実践に返していくことで、少しでも利用者の生活の豊かさへ繋げて行ければと考えている。

#### （結果4 新任職員 中堅職員の育ち）

先輩職員のアドバイスやフォロー、また職員自らが学ぼうとする姿勢からそれぞれに成長して1年を終えられたと感じている。特に2年目、3年目。それ以上の職員は後輩育成の中から見えて難しさや、自分の課題に気づき、向き合うことそのものが成長の一步のように評価している。のびしろはまだある。  
※育ちを守る この違いは意識しておきたい。

#### （結果5 困難ケースの受け入れから送りだい）

非常に支援の難しい利用者（こだわり 他害 衣類やぶり）の受け入れから、状態の立て直し、そして所属施設への送り出しまでのフロアが一丸となって取り組み結果を出すことができた。困難ケースの支援を通じての軸職員成長、中堅職員との連携、新人へのフォローなどチームとして働く上でのベースとなる部分を再度確認しつつ、皆が経験の中で成長することができた貴重な取り組みだった。

#### （結果6 付き合いの変化・余暇時間の充実）

余暇時間を有効に使う意識、利用者と一緒に何かに取り組む時間として、それぞれの職員が個別で取り組む

姿がとても増えた。療育的な視点に加え、一緒に過ごす、寄り添うといった部分の充実度が増えてきている。一緒に取り組むことで、付き合いのポイントや、利用者の苦手な部分をしり、その苦手さにどうアプローチしていくのかなど考える機会にもなっている。

#### 4. 総括と来年度に向けた課題

フロア運営については1年を通して一番安定的に支援出来た年だったと思う。その要因は様々考えられるが、支援の質、チーム力、投薬調整、支援の転換期的な意味でも、すこし幅を持って利用者への支援を考えていたことなどがあるのかと思う。しかし、やりがいがあったかと考えると、個人的にはすこし物足りない1年間だったと感じている。

これまでの支援のベースがあってできている前提、今年と同じような付き合いを続けて維持できるとは思わないし、そうなるとだんだんと支援が困難になってくると考える。今の支援が良いか悪いか、その時々で違ってくるが、やりがいがあったかどうかは、個人の仕事への向き合いの質的な部分へ影響してくる。大変でもやりがいがあったと思えるなら、それはその人にとっては素晴らしい経験になる。うまく付き合えてもやりがいを感ぜられなかったら、支援の質的には軽く、薄いものなのかもしれない。やりがいもなく、うまく付き合えないとなると、仕事が嫌になる。ここに陥らないために、自分たちでやりがいのある仕事にしていくこと。大きな問題がない日々の支援に流されるだけにならない。大きな問題がない今こそ、新しい事にチャレンジする、できるチャンスでもある。

今年度の評価を押さえると、安定的。その評価を押さえた上で次に必要なことを自分たちで考えていくことが、これからの重要な課題である。

恵まれた環境で、恵まれた職員チームで働くことで、守られている感を知らず知らずにかけてしまっているのかもしれない。だから虐待防止の5本の柱を閉める。共通確認もない。これらの恵まれた思想に甘えていた。実際に自分たちで考えて、新たに何かを進めていこうと考える時に、考えが出てこない。お膳立ての中で一生懸命に力を注いでいたのかもしれない。それに気付かされている。

次年度に向けて、上記の内容を十分にリーダーが理解し、フロアとして新しい物を作り上げていく意識で活動していくことが必要であり、今まで以上に方向性を示し、動いていくことが自分への課題であり、フロアとして必要なことだと考えている。  
(1Fフロア一長 尾崎 勇一)

### <2Fフロア>

#### 1. 利用者関係(次年度に向けて)

##### (1)今年度の課題と現在進行形の取り組み等

- Aさん 有期限有目的での新規通所利用(H29年4月～)
- Bさん 行事前後、月またぎ等に他害や無断外出がある利用者さん。投薬調整中
- Cさん トモニ療育研修対象者
- Dさん 新規入所利用者(H30年3月～)
- Eさん 歯科検診・ランニング・ショートステイ利用等の課題。新規通所利用者(H29年9月～)
- Fさん 投薬調整も含めた支援方向の検討(帰省後の大声、パニックの軽減、家族との調整)
- Gさん 県外の強度行動障害のある利用者の定期的な受け入れ

多くの課題・取り組みが現在進行形である。今年度は新規契約した利用者が3名。それぞれに課題がある。利用者担当職員を中心にしつつ、フロア全体で取り組んでいく必要性あり。Aさんに関しては2年を目途に受け入れた利用者であり、あかりで培った力を地域に返していく(他施設へ移行する)方向で展開していく。Fさんは近年2Fフロアでどういった対応をしていくか悩み続けている利用者であり、今もまだ答えは出ていない。本人も職員も疲弊している現状であり、何か突破口を見つけていく必要がある。

##### (2)利用者にとってどうか?という視点の見直し

本人は今幸せか?本人は今何を考えている?利用者それぞれがどう感じ、どう考え、どう生きているか。一方向的な関わりに陥っていないか。“双方向”的な関わりを実践できているか。利用者の暮らしや人生を豊かにしていくための応援をしていく視点をもう一度原点に戻って見直していく必要がある。

#### 2. 2017年度2Fフロアを振り返って

##### (1)2Fフロアの日々の働き方はどうだったか?

今年度は「療育的視点」と「働き方」のバランスを考え直すをテーマとしていた。今年度は改善委員会の発足と共にそれぞれの職員が自分の仕事の“省力化(削るところは削る)”を行ってきた1年であった。業務の効率化に関しては昨年度に比べても飛躍的に進歩している。

一方で、2F 全体として支援は深まったか？チーム力は向上したか？

(2)「職員“個々”の育ちは成果が出ている」がチーム力向上は大きな課題

数年前から2Fフロアの課題として職員の育ち、特に中堅職員の育ちに注力してきた。「ねらいとしていた層の力量アップは成果が出ている」と評価。

個々の成長は感じられるが、2Fチーム全体としてはどうか？「支援力はジワジワと低下している」と評価している。維持できない、踏ん張れないもどかしさもある。

2. 総括と来年度に向けての課題

今年度は新規利用者を3名受け入れた。それぞれの利用者に課題があり、担当を中心としながら2Fチームで展開している。ここ数年ずっとテーマにしてきたが、行動障害の激しい彼らの応援には“支援力”の向上が欠かせないテーマである。対応の技術を磨きながら、職員それぞれの思想・価値観を高めていく、深めていくこともフロア長として意識して取り組んできた。時代の流れをおさえつつ、“働き方”の見直しや虐待

防止検討、あかりの家職員が目指すべき支援の在り方の見直し等が来年度の大きな課題である。

(2Fフロア長 前阪 敬介)

<医務室>

1 健康診断(年1回)

再検が必要な利用者には協力医院である井野病院で、血液検査やCT検査、心電図等を受け、結果は必ず保護者に説明している。5人が肝機能障害のため精密検査を受けた。結果はてんかんの薬の影響によるもの。

2 日々の健康観察

丁寧な健康観察は、利用者の体の変化に早く気づき、回復を早める。また、園内感染も最小限に防ぐ。

3 インフルエンザや感染症予防

2名を除いてインフルエンザ予防接種を43人が受けた。高砂市周辺のインフルエンザ情報を参考に、手洗いを徹底し、うがいのできる人にはうがいを実施した。また今年度は、毎日検温を実施し、早期発見に努めたが29人が感染した。(A型が19人、B型が9人)

感染症発生時のマニュアルを作成し消毒等を徹底した成果があったのか、ノロウイルスの嘔吐、下痢の症状も診ることもなかった。

4 歯科検診

16年度から毎月、利用者全員にブラッシング指導と歯石の除去をしてもらうことにより歯茎からの出血もなくなり健康な歯茎になってきている。園でも朝、昼、夕の食後には一人ひとり丁寧に歯磨きをして、歯間ブラシの必要な人には昼食後に実施している。

5 痔、腰痛対策

痔や腰痛の人が増え今年の冬は、これ以上悪化させないように、全職員で取り組んだ。(看護師 藤田照代)

<調理部>

I 平成29年度施設目標

「利用者個々の健康維持増進に配慮した安心で安全な給食提供」

II 実施内容

1 年間実施食数

	利用者・ショート	友愛	GH	職員	総食数
全月計	40,865	1,938	3,340	7,457	5,3600
月平均	3,405	162	278	621	4,467

2 栄養ケアマネジメント

対象者	実施期間	モニタリング実施
利用者 40名	通年	5月、8月、11月、2月
低リスク39名	中リスク1名	29年度計画変更者5名

3 衛生

加古川健康福祉事務所立ち入り検査→今年度  
東洋産業害虫駆除月1回、消毒年3回

検便月1回

#### 4 防災

- (1) 自主点検 終業時毎日実施
- (2) 災害用食材(非常食・飲料水・備品)3日分を外倉庫に備蓄

#### 5 その他

嗜好調査 12月実施 価格調査 2月実施

### III 業務取り組み内容

- ①行事食 (あかり祭り、忘年会、餅つき会)
- ②季節メニュー (秋祭り、節分、ひな祭り)
- ③手作りおやつ毎水、日曜日提供
- ④栄養ケアマネジメント
- ⑤厨房会議月1回
- ⑥勉強会(後期～月1回)

### IV 総括、今後の課題

前期は5月の実態調査で業務内容、職員の意欲低下など様々な問題点が見え、中期は人員不足で献立の簡素化、旭班の外注、厨房業務を支援部にも協力していただきながら大幅に変更せざるを得なかった。今までの業務の固定観念にとらわれず、何が必要かを常に考えながら、職員同士が助け合い、厳しい状況から業務の改善、効率化に繋がっていたと思える。後期は新人2名が入り新人育成と共に、厨房全員で基本から立ち上げている段階である。中期の人員不足は管理栄養士の業務の時間が取れず、現場中心になっていたため業務が後期に押ししてしまった。現場も経験の浅い職員の早期育成、利用者さんの高齢化で食事形態の対応等課題は多々あるが、次年度も利用者さんに安心、安全に食事が提供できることを第一に精一杯取り組んでいきます。  
(厨房 主任 内藤)

## VI 職員研修

### 1 支援員研修

- (1) 第24回あかりの家事例研究会(2/25(日)10時～15時 於あかりの家地域交流ホーム)

テーマ: ①Uさんの「リハビリ的ショートステイ」を通してあかりの家の支援の本質を問う  
②三気の里の支援を言語化する(三気の里さんの担当者が体調不良の為に、急遽欠席)  
③高齢化に備えて(三気の里さんの資料を参考にあかりの家の高齢化を議論する)  
④新規キーワード

助言者 (有)かくたつグループ 代表取締役 片倉厚子先生

事例発表 あかりの家支援員(主に資料作成担当、新規採用キーワード発表者)

参加者 あかりの家職員、内定支援員 計約45人

研究会用冊子の発行(75部)

事後研修 事例研究会後、レポートと質問を片倉厚子先生に提出し、質問にはコメントが返ってくる。

- (2) 学習会・相談日(嘱託医平井先生による。週末帰宅の土曜日午後3時間の支援員研修)

①	5/27 (土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
②	6/17 (土)	平井 Dr.	ケース会議 (Tさんどう配慮すれば生活しやすいか?)
③	7/22 (土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
④	8/26 (土)	平井 Dr.	ケース会議 (Iさんの持っている能力を活かす)
⑤	9/16 (土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑥	10/15 (土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑦	11/4 (土)	平井 Dr.	ケース会議 (Aさんグループホームでの次のステップアップ)
⑧	12/16 (土)	平井 Dr.	ケース会議 (Oさんのこだわりを小さくする)
⑨	1/27 (土)	平井 Dr.	平井 Dr.による講義(生育歴から読み取る)
⑩	2/17 (土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談

- (3) かくたつ療育研修 (2000年10月～)

スーパーバイザー(有)かくたつグループ代表取締役 片倉厚子先生

7/30(日)通所利用者Tさんケース会議と実地研修・Iさんケース会議

事前に資料を作成し送付。当日、実地研修およびケース会議を行い、日常の支援に活かすポイントやエッセンスを学ぶ。研修終了後、利用者把握で参加できなかった支援員に、参加支援員が説明。昨年度は、各フロアよりケースを選定し、研修を実施。研修終了後、各支援員は「研修を終えて(①療育ポイントと感じたこと②質問等)」のレポートを提出。後日、片倉厚子先生から質問等に対するコメントが送り返される。例年、年2回実施していたが、業務等見直しの動きの中で、2017年度は1回となっている。

(4) トモニ療育研修(2010年11月～)

10年11月、トモニ療育センター(愛媛県)河島淳子先生・高橋知恵子先生を、講師招聘内部研修としてお招きしたのをきっかけに、療育研修として継続している。

<17年度のテーマ>

- ①「支援者の療育思想のチェンジ。とりわけ一方的関係からの脱皮」  
(「第一段階の教育」をおおむね突破したあかりの家のここ何年かの大きなテーマである)
- ②「トモニ療育を更にどう広げていくか」  
(今まで「トモニ小集団(研修)」の中で<核なる職員>を作っていたいただいた流れを踏まえて)

<内容>

- ①第1回研修:平成29年9月27日(木)  
トモニ研修担当の神戸を中心に、職員を育てたいとの話が河島先生より有り、神戸の担当である片岡さんを対象ケースにし、研修を実施。
- ②第2回研修:11月23日(木)  
午前中は、片岡さん、午後は正木さんを対象ケースとして研修実施。
- ③第3回研修:1月26日(金)  
午前中は、片岡さん、午後は竹中さんを対象ケースとして研修実施。
- ④第4回研修:3月8日(木)  
午前中は、片岡さん、午後は近藤さんを対象ケースとして研修実施。

当初の出発点は、「100並べは、かなり有力な支援の“武器”になり得る」「脱一方的な関係」であった。経過として、その人の分かり辛さへの想像や、どうすれば気づかせられるのかなど職員自身の課題であったと捉えている。全体的には、上記の部分に関して、汗、努力、工夫は不十分である。

しかし、課題を通して、前向きに付き合っていくという風土は少しずつ育っていると感じている。来年度に関しては、研修時期については、未定だが、現状の活動を維持しつつ、各チームの展開を促していきたい。

(5) 整体

2007,2008年度の講師招聘研修に来ていただいた永田雄三先生(柔道整復師)の往診(毎週木曜日午後)を、職員研修として位置づけ。2017年度には、事例研究会でも整体を取り挙げ、支援部全体に整体の知識を学ぶ機会があった。利用者が生活しやすいようになるための身体の動かし方や日常に取り入れられる働きかけのノウハウや、そのヒントを得る。そして、それを各担当者や各フロアにつなげ、実践していく。利用者との関わり方を広げる、関わり方の知識をつけるために、若手職員(1～3年目)を中心に学ぶようにしている。主に担当ケースを取り上げて診てもらいつつ、学んだことを現場でも活かせるように係から話をしている。

(6) 中堅職員研修(休止)

(7) 課題検討委員会 今年度は未実施

(8) 施設見学、現任訓練等

12月	三気の里 かくたつ合同研修会参加・見学(2日)	熊本県	土井(孝)、真鍋
-----	-------------------------	-----	----------

(9) 発達障害支援スーパーバイザー養成研修受講(日本自閉症協会・全自者協主催研修;4年目)

7	前期集合研修(3日)	東京	神戸/三原(1日)
9	実務研修あさけ学園(5日間)	三重県	神戸

12	実務研修 しもふさ学園(5日間)	千葉県	神戸
3	後期集合研修(3日)	東京	神戸 / 三原(1日)
3	資格認定研修(2日)	東京	亀山、尾崎

(10) 出張研修 (主なもの)

月	研修内容(実質研修期間)	研修地	参加者
7	行動援護従事者養成研修(4日)	姫路	内田
7	播淡地区職員研修会	小野	渡邊
7等	サービス管理責任者研修(5日)	明石等	尾崎
7	虐待対応力向上研修(県)	神戸	谷口
8	播淡地区施設長職員研修	姫路	坊垣、原谷
9	福祉の集い	神戸	山崎
11	第31回全自者協 新潟大会(2日)	新潟	三原、坊垣、亀山、山口、(齋藤)
11	播但地区研修会	福崎	安東
9・10	強度行動障害支援者養成研修(基礎:2日)	神戸	山口、原、岸本、原谷、土井孝、谷口
12	強度行動障害支援者養成研修(実践:2日)	神戸	山口、岸本、原谷、土井孝、谷口
12	三気の里とのかくたつ合同研修(2日)	熊本	真鍋、土井孝
2	全自者協近畿ブロック情報交換会(2日)	神戸	三原、坊垣、前坂、神戸、後藤

2 新任職員研修 (支援員)

(1) 出張研修 (今年度はなし)

(2) 内部研修 (新任研修プログラムによる年間研修)

月	研修内容
4	各部署レクチャー実施(事務、医務、調理、防災、各作業班、給食保険衛生部会長レク) 地域支援については研修担当から説明程度にとどめた。各作業についても部長と見学程度にした。
5	レポートなどの回数調整・時間調整の為、活動なし
6~7	現場実習レポート
6~3	保護者通信「あかりっこ」作成(新任支援員で持ちまわり)
8	期末レポート(自分の課題と質問)
9	課題レポート(夜勤について)
10	課題レポート「DVD『青山新吾 僕が自閉語を学ぶわけ〜特別支援教育の今後を考える〜』の第1部「僕が自閉語を学ぶわけ〜第1段階の教育から第2段階の教育へ〜」を見てレポート
8~2	現場実習レポート
12	期末レポート(自分の課題と質問)
1	課題レポート(実習生用キーワードを読んで)
2	嘱託医の平井 Dr.による相談
3	新任研修終了レポート(学んだこと、これからの意気込み)
通年	あかりの家に届く施設だよりの回覧。

3 保健衛生関係研修 (主なもの)

4 調理員研修 (主なもの)

月	研修内容	研修地	参加者
4	給食協議会総会・研修会	高砂	宮内
7	社会福祉施設栄養業務の更なる充実を目指して	加古川	長谷
8	障害者施設の個別栄養管理の充実に向けて	加古川	長谷
9	給食施設協議会后期研修会	高砂	船江
9	給食施設相互支援実施訓練	高砂	内藤

## 5 運営・管理・経営的・事務な研修（主なもの）

月	研修内容	研修地	参加者
7	全国知的障害者施設長会議(2日)	東京	三原
5	安全運転管理者等講習会	明石	足立
1	退職共済制度説明会	神戸	中右
1	社会福祉法人監事研修	神戸	三木監事
2	非正規無期転換セミナー	神戸	藤原
2	社労士加古川支部研修会	加古川	藤原
2	人材評価制度の円滑な運用について	神戸	藤原
3	障害者総合支援法等関係者事業者説明会(県)	神戸	三原・斎藤・藤原
3	障害者総合支援法等関係事業者説明会(姫路市)	姫路	坊垣、内田

## 6 自己啓発研修

2件2人利用、他、『さぼ一と』購入補助)5人程度、姫路親子体操教室

## VII 地域交流

### 1 ボランティア

- (1) 音楽クラブ指導(永江先生) 月1回 帰省日でない土曜または日曜日
- (2) 華道クラブ指導(松尾先生) 月2回 土曜日午前
- (3) アートクラブ(阿部先生) 月1回 木曜日午後
- (4) あかり喫茶(秋桜会 5人程度) 第3または第4金曜日 午後、月1回利用者用の喫茶店実施
- (5) 餅つき会(20人程度) 高砂を明るくする会、コスモス
- (6) さをり織り製品化ボランティア(保護者)

### 2 あかりの家行事への地域等からの参加 ボランティア以外、特になし

### 3 地域交流ホームの開放

- (1) 地域障害児者の和太鼓練習(月2回)
- (2) ボランティアグループ、高砂を明るくする会会合(新年)
- (3) 専門図書貸し出し(実績なし)

### 4 研修会等の後援等 特になし

### 5 地域行事等への参加等

### 6 広報

#### (1) ホームページ

新HP(3代目)13年7月18日にアップ。

新HP開設後、カウンター数の追跡が出来ていなかったが、2015年5月18日(月)に内部カウンター設置。

2017年2月28日(火)にスマートフォンで見れるようにサイトを変更。

また、同時に記事の更新方法をWordプレス形式に変更し、更新作業を簡易化した。

職員募集に果たすHPの役割が、ますます重要になっている。

スーパーバイザー養成研修でも、HPによってあかりの家を選択したとされた方が多い。

#### (2) 発刊物等

	発行日	発行部数	配布対象
保護者通信「あかりっこ」 No.331～ No.340	毎月	各100部程 延1,000部程度	保護者、法人役員・評議員、後援会役員、 採用内定者、ボランティア等
「あかりだより」No.27	8/1 (年1回)	600部	法人利用者保護者・職員、後援会員、地域 関係施設・全自者協施設・関係機関等
第24回「あかりの家事例研究会」	2/25	75部	あかりの家職員、講師、関係者 他

## (3)掲載記事等(新聞・雑誌・機関紙等)

片倉信夫全集(第3巻) (H29.4.5刊)	佐々木智之(かくたつ前橋)発行	2003.2.24「第9回あかりの家公開事例研究会」での片倉信夫先生の講演の記録収録
青山新吾准教授 論文 (2017)	ノートルダム清心女子大学紀要 第41巻第1号	自閉症といわれる方々の「生活」を視野に入れたアプローチ 一片倉信夫の教育論が示すこと(1)― その分析材料の軸の一つにあかりの家のキーワードを利用

## (4)取材

ネット求人(マイナビ)のための取材

## (5)展示・出展

展示、販売(「P.6 Ⅲ「作業の概況」の「3 福祉バザー」、「4 さをり織り委託販売」参照)

## 7 あかりの家施設見学受入・・・9件26人(内、県外2件8人)

PTA・保護者		福祉事業所関係		教育・保育関係		行政・議員関係		地域関係者		当事者	
1件	2人	5件	17人	件	人	3件	7人	0件	0人	件	人

クローバやあいあむなど経由の見学者、短期利用希望者、外来相談関係等の見学者は把握できず  
12月と2月、岡山県と高知県の施設関係者から見学2件

## 8 その他 記録的なこと

①9/14 社会福祉法人嬉泉(東京)50周年記念式典・パーティー出席(三原)

## Ⅷ 地域支援

## 1 障害児等療育支援事業

## (1)兵庫県

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等 支援事業	40	122	自閉障害	19	88	重度	22	50
			知的障害	13	24	中度	11	14
			重症心身	0	0	軽度	4	55
			身体障害	0	0	その他	3	3
			その他	10	10			
施設支援指 導事業	15	40	生活介護事業他	0	0	施設支援 指導事業	15	40
			就労継続B型	4	9			
			地域活動支援センター	1	1			
			学校・保育園	8	30			
合計	55	162	合計	55	162	合計	55	162

福祉圏域	人・施設	件	利用理由	件
東播磨	54	127	療育相談	162
西播磨	1	35	療育援助	
但馬	0	0	教育相談	
北播磨	0	0	進路	
その他	0	0	その他	



## (2) 姫路市

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	38	138	自閉障害	37	199	重度	34	189
			知的障害	1	9	中度	3	7
外来療育等支援事業		70	重症心身	0	0	軽度	0	0
			その他	0	0	その他	1	12
施設支援指導事業	8	26	生活介護他	6	23	(施設支援指導事業)	8	26
			就労継続B型	2	3			
			グループホーム	0	0			
合計	46	234	合計	46	234	合計	46	234

市町	人・施設	件	利用理由	件
姫路市	46	234	療育相談	166
			療育援助	67
			その他	1
合計	46	234	合計	234

## 2 短期入所（介護給付）73人 延2,117日

利用形態		障害種別			男女・児者		市町					
形態	日	種別	人	日		人	市町	人	日	市町	人	日
介護給付	2117	自閉	59	1688	男	53	高砂	14	431	神戸	1	34
私的契約			81%	80%	女	20	加古川	24	478	尼崎	2	22
		知的	13	427	児者	8	播磨町	5	207	宍粟	1	119
			18%	20%			稲美町	2	52	朝来	1	2
		難病	1	2	者	65	明石	2	24	県外	3	395
計	2117	計	73	2117	計	73	姫路	18	383	計	73	2117

## 3 日中一時支援事業（地域生活支援事業）65人、延630日

利用形態	日	種別	人	日	男女、児者	人		人	日
地域生活支援	630	自閉	57	577	男	51	高砂	9	102
			88%	92%	女	14	加古川	29	276
私的契約	0	知的	8	53			明石	2	4
			12%	8%			播磨町	5	39
		その他	0	0	児者	19	稲美町	1	3
			0	0%	者	46	姫路市	19	206
計	630	計	65	630	計	65	計	65	630

## 4 被虐待者障害者一時保護支援（高砂市と播磨町・稲美町と契約）

実績なし

## 5 姫路親子体操教室（兵庫県自閉症協会姫路ブロック事業）

こどもの身体への働きかけを通して、受容と主導のバランスをもった親子のいい関係作りをめざす。

三原施設長の高砂親子体操教室のプログラムを準用し、'95.7三原施設長が指導者として開始。

'18年3月で615回実施になる。基本は月2回土曜日10時から2時間実施。

'17年度は、三原を中心にして、道端、後藤支援員が時に参加。他にSV養成研修生7人・延23人参加。

17年度参加者	メンバー10人;小3から25歳の男子、全員姫路市	19回	延103組の親子参加
---------	--------------------------	-----	------------

6 講師、発表、寄稿等 ※( )は法人内職員

平成29年度発達障害支援SV養成研修集合研修(センター全連協副会長)				7/26	講義	(和田)
発達障害支援SV研修資格認定(アドバンス・マスター)研修				3/13	事例発表	尾崎
発達障害支援SV研修フォローアップ研修検討会				9/14	委員	亀山
全自者協近畿ブロック第1回情報交換会(於:神戸)		2/15・16	発題・進行	三原・坊垣・前阪・神戸・後藤		
日本自閉症スペクトラム学会近畿支部第7回資格認定講座				10/29	講師	三原
伊自良苑「自閉症・発達障害を考える研修会」(岐阜県)				2/24	講師	三原
和歌山県田辺市障害者理解促進事業・和歌山県自閉症協会講演会				3/3	講師	三原
かくたつ合同研修会(三気の里(熊本県))				12/3	発題	土井孝、真鍋
兵庫県	強度行動障害支援者養成研修	基礎研修	第1回	9/30・10/1	講師&演習補助	三原
				9/30		亀山
		第2回	10/21・22	三原、亀山		
	実践研修	12/21・22	講師・演習補助	三原、坊垣、(和田)		
兵庫県自閉症協会・神戸市自閉症協会 研修旅行				11/10・11	講師、介護	前坂
栗の木荘 施設内研修会				10/30	講師	尾崎、三原
行動援護従業者養成研修(NPO法人ばれっと主催;神戸市)			8・9月(4日)	講師	三原、坊垣、亀山、尾崎、前阪、(齋藤、和田、濱口)	
行動援護従業者養成研修(姫路心身障害者市民懇話会主催)			7月(4日)	講師	三原、坊垣、亀山、尾崎、前阪、(齋藤、和田、濱口)	
障害者支援技法研修(明石市)				12/12	講師	坊垣
加古川市障がい者基幹相談支援センター		発達障害者就労支援		2/20	相談	坊垣
		強度行動障害と虐待		3月・2回	講師	三原

7 関係団体等への役員や職員派遣等

全日本自閉症支援者協会		役員	副会長	10.7~	三原	
発達障害支援SV養成研修実行委員会			実行委員	16.6~	三原	
発達障害支援SV養成研修検討委員会			委員	7月~	亀山	
日本自閉症スペクトラム学会近畿支部資格認定講座			受付	10/29	坊垣	
兵庫県自閉症協会			役員	98~	三原	
姫路ブロック 姫路親子体操教室			指導者派遣	年間、95~	三原、道端、後藤	
ひょうご・ゆあひスポーツ大会 200メートル			陸上競技委員	16.4~	安東	
神戸市自閉症協会			顧問	11.4~	三原	
播淡地区 職員代表者会			スポーツ委員	16.4~	原谷	
播磨町	播磨町障害者福祉計画策定委員会		委員	17.7~	三原	
	地域自立支援協議会推進会議		委員	10.6~	三原	
稲美町	地域自立支援協議会		委員	11.4~	三原	
高砂市	自立支援給付等審査会		審査委員	06.6~	三原	
	地域自立支援協議会	全体会		構成員	08.2~	三原
		運営会議		委員	10.6~	三原
		くらし部会		委員	12.4~	三原
		こども部会		委員	14.4~	福原
		障害福祉計画進捗評価会議		構成員		三原(濱口)
高砂児童学園応援チーム		応援チーム	構成員	15.7~	三原、(濱口・橋本)	
社会福祉法人 トリソ			評議員	16.3~	坊垣	
社会福祉法人 曾根福祉会			評議員	17.4~	三原	
社会福祉法人 常寿会			評議員	17.4~	藤原	

8 主幹開催等

全日本自閉症支援者協会近畿ブロック第1回情報交換会 担当  
2/15・16 於；神戸市元町 ラッセホール(兵庫県教育会館)

9 実習受入

(1) 発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入 ※全自者協、日本自閉症協会主催

①目的：発達障害者支援センターや全国自閉症者施設協議会職員、及び医療、保健、福祉、教育、労働の各分野に携わり、一定程度の実務経験のある方を対象に専門性と実践力を伴うスーパーバイザーを養成する為に実地研修の受け入れを行なう。

②受講者（12名）

	日時	期間	受講者
1	H29年9/4(月)～9/8(金)	5日	5名(県外2名、県内3名)
2	H29年10/2(月)～10/6(金)	5日	4名(県外3名、県内1名)
3	H29年11/27(月)～12/1(金)	5日	3名(県外2名、県内1名)

③実地研修プログラム(基本形)

	9:00	12:00	13:00	13:30	14:30	15:30	17:00	17:30
初日(月)			受付	開講式・オリエンテーション(施設見学含む) 講義1「あかりの家の自閉症支援」			意見交換会	18:30～懇親会
2日目(火)	臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→①プラグ班、②軽作業班)	休憩	講義2「行動障害のある人々への支援ー自閉症療育のキーワード集を通してー」	事例検討ーリハビリ的ショートステイ			まとめ意見交換	
3日目(水)	①臨床実習 ワークホーム高砂 ②臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→プラグ班、軽作業班、さわり班)	休憩	臨床実習 あかりの家(体操活動)	講義3「自閉症の人たちの地域生活支援」地域支援センターあいかむ			まとめ意見交換	
4日目(木)	②臨床実習 ワークホーム高砂 ①臨床実習 あかりの家(プラグ班、軽作業班、割箸班)	休憩	臨床実習 あかりの家(トモ活動)	講義4「発達障害者支援センターの取り組み」発達障害者支援センタークローバー			受講者間のフリートーク	
最終日(金)	臨床実習 あかりの家 (引き継ぎ→ランニング) 臨床実習 児童デイ あかりの家	閉講式・まとめ意見交換						

(2) 学生、施設職員(含上記(1))、学校先生等・・・ 16件、35人、延202日)

介護等体験(教職員免許必修実習)	2件	3人	延 15日
社会福祉実習(社会福祉士受験資格)	0件	0人	延 0日
保育実習	6件	10人	延 100日
現任訓練(特別支援学校先生、事業所支援員など)	2件	2人	延 11日
体験ボランティア実習(関西福祉大学2年生;谷口クラス)	3件	8人	延 16日
発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入(上記(1)再掲)	3件	12人	延 60日

(3) 児童・生徒

体験実習(特別支援学校)	0件	0人	延 0日
--------------	----	----	------

10 福祉避難所・・・高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.2).11) 本年度利用無し

**Ⅹ 個別支援計画・施設サービス評価・苦情解決**

- 1 個別支援計画 前期と後期の年2回作成。(保護者との懇談を7/1に実施)
- 2 施設サービス評価 なし
- 3 サービス苦情解決(障害者支援施設、短期入所事業)

期末休み明けに「休み中の生活の様子」を聞き取る。その際「あかりの家への要望等」の項目を設定し、毎期末休み明けに要望を聞き取っている。今年度4件の「あかりの家への要望等」を取り上げる。

## <受付事例>

支援に関する内容(療育支援に関すること・健康に関すること・長期休みの短縮希望など)

苦情受付担当者	亀山 隆幸 (サービス管理責任者)
苦情解決責任者	三原 憲二(あかりの家施設長)
第三者委員	富士原一成(前 高砂市社協理事長) 高尾 剛一(元高砂市福祉部次長、あかりの家前監事)

## ☒ リスクマネジメント・防災・安全・衛生

### 1 リスクマネジメント

怪我、投薬ミス、物品破損、車キズ等については、「事故等報告書」提出を義務付け。

17年度は55件提出(16年度は56件、15年度は、57件、14年度は62件、13年度は113件)。

<怪我>15件(打ち身、切り傷、すり傷等などが14件。(内、対応での転倒等によるまぶた等の打ち身、切り傷等が5件、ランニング・作業棟移動での転倒が4件)、

<破損>8件(内、車破損2件、ガラス破損3件、その他、眼鏡、TV等)

<その他>8件では、無断外出1件、迷子1件のほか、公用車に関する事故6件(友愛の家駐車場にて柱にぶつける2件、軽トラパンク、左折時に壁面に擦る等)。

<投薬に関するミス>ピークの12年度では31件あり、①投薬業務に臨む覚悟の確認、②投薬業務に専念できる環境づくり、③ミスを生じにくい予防策を組込む等、根本的な見直しを行った結果、13年度20件、14年度17件、15年度は16件、16年度は12件、17年度は13件と減っているが、それ以下にはなっていない。

17年度では、SS利用者関係がミスの約6割、帰省日・帰園日のミスが5割であった。

18年3月より、SS管理表にて受入れ時、「投薬の有無、セット済、受給者証返却済」等の項目を設け、チェックしていく体制を導入している。

### 2 防災

#### (1) 防災訓練

①訓練内容(上記①②含む)

a 避難訓練 10/31

b 通報訓練 10/31

c 消火訓練 10/31

(3/20 消化・避難・通報・夜間想定の訓練をを予定していたが、3月と長期のインフルエンザ集団感染により実施出来ず)

②新任レクチャー(4月に実施)

・火災時の対応・避難訓練の説明・消火器、散水栓の取り扱い方などを説明

※今年度は高砂消防本部を要請しての避難訓練は実施なし

(2) 消防自主点検 月2回程度実施

(3) 消防計画変更なし(5)業者委託点検等

a 消防用設備等(スプリンクラー設備、非常動力設備、自動火災報知設備、消防機関に通報する火災報知設備、誘導灯及び誘導標識、消火器具) 年2回(4、10月)点検

内、10月分を「消防用設備等(特殊消防用設備等)点検結果報告書」として高砂市消防本部へ届出

b 特殊建築物等定期調査 (10/18)

(6) 電気設備の安全調査(加古川地区電気安全調査センター) 4/27 「良好」

(7) LPガス設備保安点検 ((有)保安センター東播) 1/10 「良好」

### 3 交通安全

(1) 車両管理: 担当者により点検

(2) 無事故・無違反運動「チャレンジ1000」(10/1~1/8)(県全運転管理者部会等共催)に8年連続8回目の参加。3チーム(1チーム10人、計30人参加)編成し、3チームとも無事故・無違反を達成し、表彰を受ける。

(1チーム時代6回中5年無事故無違反、今回含めて延14チーム中11チーム無事故無違反達成)

(3) 5/16 安全運転管理者等講習会 足立事務員(補)出席

#### 4 衛生

(2)貯水槽清掃 8月13日業者にて実施

(3)合併処理浄化槽関係

①合併処理浄化槽業者点検 年24回(毎月2回)実施

②10/5(社)兵庫県水質保全センター検査 「適正」

## XI 総務関係

### 1 職員の採用・退職(あかりの家)

(1) 正規職員	採用2人	4/1 支援員(男1、女1)、
	身分変更	4/1 支援員(男2パート→嘱託;バンディオンセ加古川)
	退職3人	4/30(支援員女1)、5/16(支援員女1)、5/31(支援員男1)、8/31(調理員女1)
(2) 嘱託職員	採用1人	9/1 事務員(女1)、身分変更 1/1 調理員(女1パート→嘱託)
(3) パート職員	採用2人	10/1 支援員(女1)、11/20 調理員(女1)
	退職1人	7/31 事務員(女1)

### 2 求人活動(法人)

(1)H30年度新卒支援員求人 (H29年度内の、インターシップなどの31年度求人活動は、坊垣さんに依頼)

#### ① 兵庫県福祉人材センター

6/24「29年度第1回 福祉の就職総合フェアin HYOGO」

6人面談 (内、1人面接し不採用、1人施設見学)・・・内定0

8/30「29年度福祉の就職説明会in HYOGO」(明石会場)

2人面談(男1人、女1人) 内1人施設見学・・・内定0

3/10「29年度第2回 福祉の就職総合フェアin HYOGO」

11人面談 (内、男0人、女11人/現3年生10人、卒業予定者1人(20~22歳11人))

#### ②インターネット求人サイト「リクナビ」を活用 (H17.3.1アップ)

<法人説明会&見学会>

第1回(あかりの家交流ホーム) 3/17 13時30分から(参加者1人)

第2回(あかりの家交流ホーム) 4/7 10時30分から(参加者2人)

第3回(あかりの家交流ホーム) 4/17 13時30分から(参加者1人)

第4回(あかりの家交流ホーム) 5/22 13時30分から(参加者1人)

第5回(あかりの家交流ホーム)

第6回(あかりの家交流ホーム) 7/14 10時30分から(参加者2人)

<採用試験>

7/14(受験者2人→採用2人、辞退1人)

#### ③実習生 なし

(2) H31年度新卒支援員求人 (マイナビ系の31年度求人活動みでOK)

#### ①インターネット求人サイト「マイナビ」を活用

◇イベント

インターンシップフェア (12/9 神戸、12/17 姫路)

マイナビ就職セミナー (3/5 神戸、3/8 姫路)

福祉の就職総合フェア (3/10 神戸:社協)

◇法人説明会(あかりの家交流ホーム)

第1回 3/6 (参加者3名)、第2回 3/16 (参加者9人)、第3回 3/19 (参加者3人)、

第4回 3/22 (参加者8人)、第5回 3/26 (参加者7人)

#### ②インターンシップ導入(初)

2018年1月5日(参加者1人)、2月5日(参加者1人)、2月9日(参加者3人)

3 職員構成 (あかりの家) ('18. 3. 31現在)

		施設長	副施設長	支援員	看護師	事務員	栄養士	調理員	計
常勤職員	男	1		17					19
	女			11	1	2	2	2	18
現員	計	1	1	28	1	2	2	2	37
非常勤				5 (5)		1 (1)		1 (1)	7 (7)
計		1	1	33 (5)	1	3 (1)	2	3 (1)	44 (7)

※ あかりの家総職員数は、児童デイ支援員を含めて44名。内、非常勤職員は7人で内書。副施設長は2名であるが、WH施設長は兼務のためカウントせず。

4 職員年齢構成 ('18. 3. 31現在)

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	総計
常勤	男	5	6	6	1		1	19	37
	女	8	3	2	4	1		18	
非常勤			4 (4)		3 (3)			7 (7)	7 (7)
総計		13	13(4)	8	8 (3)	1	1	44 (7)	44 (7)

※常勤職員平均年齢37.2歳、常勤生活支援員平均年齢32.6歳、常勤職員平均勤続年数7.8年

5 資格取得の状況 (常勤職員: 延人員)

サービス管理責任者(4)、社会福祉士(7)、精神保健福祉士(1)、介護福祉士(1)、介護支援専門員(1)、知的障害援助専門員(2)、保育士(7)、教員(5)、幼稚園(3)、相談支援援助実習指導者(1)、臨床心理士(1)、准看護師(1)、管理栄養士(1)、栄養士(2)、調理師(2)、防火管理者(5)、社会保険労務士(1)

6 表彰

(1) 法人かりの家表彰(2011年4月「表彰規程」施行)

10年勤続	内田多美、原谷香菜子
功績	眞鍋美香(優秀実践賞)、土井孝介(優秀実践賞)、渡邊真由(優秀実践賞)

(2) 外部機関・団体からの表彰

兵庫県知的障害者施設協会	永年勤続(15年勤務)	山口秀人
県全運転管理者部会等共催	無事故・無違反運動 「チャレンジ100」達成表彰	3チーム・30人参加 全3チーム達成

7 衛生委員会 (2016.9.1発足)

委員会: 毎月1回開催 (年12回実施)

委員: 統括管理者(三原) 産業医(井野) 衛生管理者(藤原) 看護師(藤田) 改善委員会担当支援員

主な議題: 長時間労働の実態報告、職員の健康診断、感染症対策について、作業環境について等

8 購入、工事、修繕、寄付物品等 (10万円以上)

6月	クリームハイエース修繕(高砂トヨタ自動車サービス)	16.4万円
7月	テレビ<1Fリビング壁掛け>(オカノデンソー)	26.7万円
11月	業務用冷凍冷蔵庫(ホシザキ阪神)	30.3万円
11月	火災報知器通報連動工事(東洋商会)	10.2万円
11月	照明器具LED取替工事<交流ホーム食堂>(オカノデンソー)	39.3万円
11月	給水ポンプ取替工事(三枝設備工業所)	85.3万円
11月	給湯ボイラー補給水管腐食漏水配管取替工事(河田建設(株))	29.5万円
12月	PCサーバー機取替(リコージャパン(株))	148.6万円
12月	NAS機(リコージャパン(株))	31.8万円
1月	ほのぼの請求ソフト(リコージャパン(株))	121.1万円
2月	業務用乾燥機(軸丸精機)	9.4万円
3月	地中給水管修繕工事<1F北棟北側>(河田建設(株))	15.8万円
3月	ジャロジー開閉修理<第2事務所>(河田建設(株))	12.8万円

## 年度特記事項

- 1 「行動援護従業者養成研修」・・・法人全体で取り組む(法人内7人+天野真砂園施設長で講師陣構成)
  - ①7月 姫路心身障害市民懇話会 主催 4日間 (委託されて3年目)
  - ②8・9月 NPO法人ぱれっと主催 (神戸市) 4日間 (初)
- 2 発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修、全国から受け入れ4年目
- 3 前年度の6人の労働紛争(長時間労働とパワハラ)に関して裁判始まる (訴状7月14日)
- 4 Fさん、腸閉塞から来る嘔吐物による窒息死亡 (4月4日)
- 5 WH高砂 全日本自閉症支援者協会 新加入 (あかりの家1993年加入)

# 2017 (H.29) 年度

## 障害児通所支援 児童デイサービスあかりの家 事業報告書

2018. 3. 31 現在

### 1 事業総括 (平成24年1月1日認可)

あかりの家だからこそできる療育の確立を目指して、基本的には、一人ひとりの児童の特性に応じた個別セッション方式(2時間を基本設定)による丁寧な療育に努めようとしてきた。しかし、年々利用ニーズの量的増加と共に、質の多様化が顕著に見られるようになってきている。

障害に対する専門性、個別事情に対する柔軟性が一人一人に求められるようになってきている。

量の増加は、個別セッションの限界を感じさせ、質の変化は、力量不足を如実に感じさせるものとなっている。困難さばかりを言っているだけでは、前向きな支援ができないため、手探りしながら、課題に対して、“あかりの家”として応えなければならない。その中で、

中高校生を対象とした作業設定(小集団) 小学生を対象にした自立設定(小集団)

重度・急性期児童に対する個別対応

の3つの枠組みをイメージし、物理的な個別療育ではなく、個別目的に合わせた支援を行うようにした。

個別性を見定め、その児童の今、将来を繋げるために何が 필요한のかを保護者さんと検討をし、必要な支援をどの位置づけで作っていくのかということを慎重に考えるようにしてきた。

### 2 事業内容

《事業の経過》	
平成24年1月1日	「児童デイサービスあかりの家」(県民局指定)として事業開始 指定障害福祉サービス事業者(障害者自立支援法)として指定(東播磨県民局)
平成24年4月1日	改正児童福祉法により指定障害児通所支援事業者のみなし指定(県障害者支援課長) 支援の種類(児童発達支援、放課後等デイサービス)
平成25年4月1日	「児童福祉法第21条の5の15第1項の規定により(略)同法第21条の5の3第1項の指定障害児通所支援事業所として(略)指定」(県指定) 児童発達支援 放課後等デイサービス *事業全体での定員10名
平成26年9月1日	保育所等訪問支援事業開始(県指定)

“児童発達支援事業”、“放課後等デイサービス事業”、“保育所等訪問支援事業”の3つの事業を行っている。3つの事業は、サービス管理責任者1名、専任職員2名、パート職員1名(7月～)で担当。

#### ①直接支援

児童発達支援 9:30~11:00、12:30~14:00 の2部構成(個別セッション)  
放課後等デイサービス 学校等が終わってから17:00まで(目安として15:00~17:00)

#### ②間接支援

訪問療育・外来相談 地域の相談支援事業所や学校、幼稚園、保育園からの要請が増えている。  
保育所等訪問支援事業 ニーズが増え始め、関係機関を巻き込みながら展開している。

### 3 利用契約者の状況

(1) 利用定員と利用契約者数(平成30年3月31日現在) (単位:名)

利用定員: 1日あたり	利用契約者数
児童発達・放デイ: 10名	39名(児童発達: 10、放課後: 29)
保育所等訪問	14名

(2) 所属《平成30年3月31日現在》

(単位:名)

	所属なし	幼稚園・保育園	小学校		中学校		計
			普通校	特別支援	普通校	特別支援	
男	1	8	12	1	1	8	31
女	0	1	2	3	0	2	8
計	1	9	14	4	1	10	39



(3) 利用者出身地別, 男女別, 知的障害程度別 (3月31日現在) (単位:名)

出身地	男	女	重度	中度	軽度	不明・未診断	計
高砂	21	3	3	6	7	8	24
加古川	5	1	4		1	1	6
姫路	5	1	5			1	6
播磨・稲美	2	2			4		4
その他	1					1	1
計	34	7	12	6	12	11	41

※知的障害の程度は、「療育手帳」の判定による

4 事業実績 (平成30年3月現在)

① 利用契約児童数 (平成30年3月31日現在)

	人数
児童発達支援	10名
放課後等デイ	29名
保育所訪問	14名

実契約数 41名

② 各曜日利用数

	月	火	水	木	金
児童発達支援	2名	2名	2名	3名	1名
放課後等デイ	8名	7名	6名	6名	7名
計	10名	9名	8名	9名	8名

③活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	昨年比
《利用状況》														
児童・放デイ	130	139	149	145	152	148	151	144	150	138	145	160	1751	-198
保育所等	20	9	10	10	6	12	12	11	11	13	14	13	141	+27
《家庭支援》														
相談 (院内)	0	21	4	1	—	—	18	9	2	—	—	—	45	
相談 (家庭)	0	2	1	1	1	1	4	2	1	—	2	1	16	
支援会議	0	5	2	5	2	4	1	2	2	4	1	4	32	
障害児等 療育支援	施設3 訪問4 外来3	施設4 訪問5 外来1	施設3 訪問3 外来3	施設3 訪問6 外来4	施設3 訪問4 外来0	施設3 訪問4 外来1	施設3 訪問2 外来0	施設3 訪問4 外来0	施設3 訪問2 外来0	施設3 訪問0 外来0	施設3 訪問2 外来0	施設4 訪問1 外来0	施設38 訪問37 外来12	

④その他

i) 研修講師

日時	主催	内容
H29.5.28	よかさぼ	自閉症の人たちと行動障害の理解と支援
H29.7.1	正蓮寺こども園	“ちょっと気になる子”に一歩近づくために
H29.8.5	正蓮寺こども園	こどもたちへの具体的支援
H30.1.15	リンクサポート	障害のある子どもの特性の理解と関わり

ii) スーパーバイズ (支援助言): 様子、発達が気になる子についての相談、支援助言、直接支援

正蓮寺こども園 (1回/月)

さいしゅうじこども園 (1回/月) \*いずれも高砂市

\*定期訪問、電話、メール等での相談

# 2017 (H.29) 年度

## 地域支援センター あいあむ 事業報告書

2018. 3. 31 現在

### ‘2017 (H.29) 年度 地域支援センター あいあむ 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
1	東播磨臨海地域における相談支援機能強化事業	’06 (H.18). 5. 22	2市2町委託事業
2	障害児相談支援事業	’12 (H.24). 4. 1	高砂市指定
3	計画相談支援事業	’12 (H.24). 4. 1	高砂市指定
4	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)	’13 (H.25). 4. 1	県指定
5	障害者等相談支援コーディネーター事業	’07 (H.19). 10. 1	県委託事業
6	高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業	’13 (H.25). 6. 1	高砂市委託事業
7	加古川市障がい者基幹相談支援センター運営にかかる技術顧問契約	’17 (H.29). 9. 1	加古川市社会福祉協議会委託事業

地域支援センターあいあむは、入所施設で培った自閉症療育等の専門性等を“地域に返していく”という方針のもと、ご本人・ご家族が地域で安心して暮らすことが出来るように「相談支援」「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に、7つの事業を展開し東播磨圏域における地域支援の拠点を目指して活動を行っている。

事業の中心である「計画相談」については本格実施から6年が経過し、圏域内における達成率がほぼ100%となっている。しかし、その一方でエリアにおける相談員が増えない実情があり、一人の相談員が抱える件数が100名を超え、きめの細かい支援の提供が難しい状況もある。巷では「量から質へ」の転換が叫ばれる中、夕方や土日しか訪問できない家庭への対応など働き方改革も合わせて検討が必要である。

「相談支援機能強化事業」については、前年度より総数で10件、実人数で15名減少している。これには、計画相談が浸透したことが要因の一つであると考えられるが、計画相談では対応できない専門的かつ単発で多様な相談を「機能強化事業」が受けていることは、今年度の相談内容を見ても明確である。

また、今年度は新規事業として「加古川市障がい者基幹相談支援センター運営にかかる技術顧問契約」を受託し、基幹センターの職員等に対してスーパーバイズを9月より行った。高砂市障がい者自立支援協議会の事務局業務、圏域コーディネーター事業と合わせて東播磨における地域づくりの一翼を担っている。

## I 実施事業

### 1 東播磨臨海地域相談支援事業（2市2町相談支援事業）

		加古川市	高砂市	播磨町	稲美町	計
		14件(7人)	43件(40人)	48件(26人)	26件(10人)	131件(83人)
相談形態	訪問	0件	6件	6件	0件	12件
	来所	10件	36件	19件	11件	76件
	同行訪問	0件	1件	0件	0件	1件
	電話	4件	0件	1件	13件	18件
	メール	0件	0件	0件	0件	0件
	ケア会議	0件	0件	0件	0件	0件
	関係機関	0件	0件	0件	1件	1件
	その他	0件	0件	22件	1件	23件

- ・06年5月22日から、加古川市・高砂・播磨町・稲美町より委託を受け事業開始
- ・週5日。市町庁舎や社協内で2時間窓口相談実施。
- ・各6時間で契約。窓口相談時間外の4時間は「施設待機」時間帯とし訪問・外来相談を実施。
- ・加古川市については29年9月末で基幹相談支援センター開設に伴い終了。

### 2 障害児相談支援事業

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始

計画作成者 113名 (高砂市62名 加古川市46名 播磨町2名 姫路市2名 稲美町1名)

### 3 計画相談支援事業

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始

計画作成者 **363名**

(高砂市169名 加古川市110名 播磨町16名 稲美町33名 明石市2名 神戸市8名 姫路市16名 加東市1名  
小野市 1名 福崎市 1名 豊岡市1名 名古屋市1名 尼崎市2名 生駒市1名 大津市1名)

### 4 指定一般相談支援事業所 (12年4月1日より県の指定により事業開始)

- (1)地域移行支援 **実施者 1名**(高砂市1名)  
(2)地域定着支援 **実施者 4名**(加古川市3名、高砂市1名)

### 5 障害者等相談支援コーディネーター事業(県新規事業としてH19. 10. 1あかりの家に委託)

(1)市町相談支援事業への後方支援 (困難事例等への対応・助言、情報提供など)

区分	相談指導等の方法			合計	
	相談支援ケースへの対応等	相談支援体制等の構築・運営	その他		
相談関係	① 定相談支援事業所従事者	70	212	40	322
	② 町職員(障害福祉担当課に限る)	52	18	20	90
	③ 記以外の障害者の相談支援関係者	5	10	6	21
	④ 保健・福祉関係者(市町職員含む)	11	22	33	66
	⑤ 教育関係者(市町職員含む)	23	27	30	80
	⑥ 就労関係者(ハローワーク等行政関係者)	0	0	0	0
	⑦ 企業等	0	0	3	0
	⑧ 障害福祉サービス事業者等	13	15	55	83
	⑨ その他(ケース会議、刑務所職員など)	57	34	90	181
	⑩ 障害者本人	3	4	0	7
	⑪ 障害者の家族等	3	1	4	8
	合計	237	343	278	858

(注) 件数…助言・指導の対応回数を記載

### (2)研修会の開催

開催日時・講演会名	開催場所	内容	参加者数
6/10 チーム支援ネット第1回全体研修会	リパティ かこがわ2階 大ホール	講演『生活を支えるヘルパーとして… 医療的ケアが必要な方のできることは? 一緒に考えてみましょう!』 講師:NPO 法人てくてく 尾瀬順次 氏	35名、 相談支援事業所、病院、保健、居宅介護等
12/1 チーム支援ネット第2回全体研修会	加古川総合庁舎 2階 会議室	講演 『その人らしい生活に向けた精神障害者への支援』 講師:日本福祉大学福祉経営学部教授 青木 聖久 氏	69名、 相談支援事業所、教育、保健、他
3/16 チーム支援ネット第3回全体研修会	加古川総合福祉 会館 大ホール	映画上映会 『風よ吹け! 未来はここに!!』	21名、 相談支援事業所、教育、保健、他

### (3) 圏域内及び圏域間の相談支援関係機関、療育係機関の連携のための業務

- ① 県関係機関、市町、医療機関、就労機関、特別支援学校、施設、事業所などの連携
- ② 就業・生活支援センター、加古川市立就労支援センターとの連携
- ③ 現存する各種団体・ネットワーク会議(就労関係・地域生活・相談事業 権利擁護)に参加
- ④ 3市2町及び圏域における地域自立支援協議会(準備会含む)への参加(年間73回)
- ⑤ 東播磨相談事業者チーム支援ネットの運営(研修会、連絡会)
- ⑥ 東播磨圏域3市2町自立支援協議会連絡会 (2回 開催)

### 6 高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業 (高砂市新規事業として13. 6. 1あかりの家に委託)

(1)会議活動回数

- ①全体会1回 ②運営会議2回 ③相談支援専門員による地域課題抽出の会1回 ④こども部会5回

⑤事業所ワーキング5回 ⑥くらし部会5回 ⑦防災ワーキング6回 ⑧高砂コンサルタ5回

⑨事務局会議21回 研修会2回 計 53回

※各会議における案内文の送付、議題表・名簿作成、資料作成、議事録作成、調整、会議の進行など

(全体会は除く)

(2) 高砂市福祉マップ 障害者編 更新作業

(3) ヘルプマーク周知用ポスターリーフレット作成および普及活動

(4) ホームページ管理・更新等

① ホームページチラシ作製

② ホームページ掲載 計 55件

各種会議報告 25件 (部会10件、全体会・運営会議報告等4件、ワーキング報告11件)

イベント開催のお知らせ 26件

その他自立支援協議会より 4件

※参考 ホームページ閲覧数 152,049件/年>

## 7 加古川市障がい者基幹相談支援センター運営にかかる技術顧問契約

(加古川社協新規事業として17.9.1あかりの家に委託)

平成29年10月に開設された加古川市障がい者基幹相談支援センターにおける職員への助言(SV)、ネットワーク会議への助言・研修講師等を定期的に行う。

(1) 基幹センター職員SV 計11回

(2) 相談支援ネットワーク会議 計6回

(3) 研修会講師 計4回

## Ⅱ 職員研修

### 1 職員研修内容

月	研修内容	研修地	参加者
6	○一般社団法人 兵庫県相談支援ネットワーク平成29年度定期総会 ○「生活を支えるヘルパーとして…医療的ケアが必要な方のできることは?一緒に考えてみましょう!」 ○兵庫県立東はりま特別支援学校 小・中学部進路講演会 「相談支援専門員とともに歩むこれから」	西宮 加古川 播磨町	濱口 濱口、川崎、松原、梶原、石井 濱口、松原、梶原、春名
9	相談支援 現任研修 精神保健福祉センター 地域移行研修会 東加古川病院	明石市 加古川市	松原 村田
11	○高砂市自立支援協議会 虐待防止研修会 「虐待の中に隠れている発達障害」 ○精神障害者就労支援事業所連合会20周年記念大会	高砂市 神戸市	石井、梶原、金鹿、川崎、手納 富木、藤原、川崎
12	○高砂市自立支援協議会くらし部会防災研修会「HUGゲームを体験しよう」 ○はぐるまの家研修会 ○精神保健支援者研修会「その人らしい生活に向けた精神障害者への支援」青木聖久氏	高砂市 加古川	濱口、梶原、春名、石井、松原、手納、金鹿 濱口、川崎、石井、松原、春名、手納、梶原
1	○高砂市肢体不自由児者親の会 研修会「玉木的幸福論」	高砂市	濱口、金鹿
3	高砂市自立支援協議会 虐待防止研修会 「虐待を許さない社会づくり」弘徳学園 重利政志氏 ○精神障害者地域移行支援事業における関係機関連絡会 ○チーム支援ネット研修会 映画上映会 『風よ吹け!未来はここに!!!』 ○「重度障害児・者の親なき後を考える」	高砂 加古川市 加古川市 加古川市	石井 濱口、川崎 濱口、梶原 濱口

### Ⅲ 実習受入

#### (1) 学生、施設職員等

発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入	3件	11人	3日
	3件	11人	延べ 3日

### Ⅳ 関係団体等への役員や職員派遣等

県立東はりま特別支援学校 学校評議員会	学校評議員	13. 6～	濱口
一般社団法人 兵庫県相談支援ネットワーク	副代表理事	13. 11～	濱口
東播磨相談事業者チーム支援ネットワーク	主宰者、構成員	08. 5～	濱口、川崎、石井、松原、金鹿、梶原、春名、村田、藤原妙、富木、手納
加古川雇用（連絡）調整会	委員	07. 11～	濱口
西宮市障害者介護給付費審査会	委員	14. 9～	濱口
兵庫県合理的配慮アドバイザー	委嘱	16. 5～	濱口
社会福祉法人博由社障害者虐待事案検証委員会	委員	17. 4～	濱口
兵庫県くらしの検討委員会	委員	17. 4～	濱口
兵庫県医療的ケア児支援関係者連絡会議	委員	17. 9～	濱口
高砂市 障害福祉計画策定会議	策定委員	17. 10～	濱口

### Ⅴ 地域自立支援協議会への役員や職員派遣等

兵庫県	自立支援協議会	相談支援部会オブザーバー	08. 8～	濱口
		相談支援部会オブザーバー	10. 5～	濱口
東播磨圏域	自立支援協議会	委員	09. 12～	濱口
明石市	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	13. 12～	濱口
		就労部会委員、	10. 4～	濱口
加古川市	障害者自立支援協議会	全体会 委員	09. 12～	濱口
		くらし・子ども部会	10. 5～	濱口、石井
		しごと部会委員		濱口、松原
播磨町	地域自立支援協議会	推進会議 オブザーバー	10. 6～	濱口
		くらす部会委員/オブザーバー	10. 7～	春名 / 濱口
		はたらく部会オブザーバー	10. 9～	春名 / 濱口
稲美町	地域自立支援協議会	全体会オブザーバー	11. 4～	濱口
		運営会議 メンバー	11. 4～	濱口
		くらし部会 防災ワーキング	16. 4～	川崎
高砂市	障害者自立支援ネットワーク会議	全体会構成員/ オブザーバー	08. 2～	坊垣 / 濱口
		連絡調整会議委員	10. 6～	坊垣 / 濱口
		くらし部会委員/オブザーバー	12. 4～	坊垣 / 濱口、
		子ども部会委員/オブザーバー	12. 5～	坊垣 / 濱口

Ⅵ 講師、発表、寄稿等

兵庫県	相談支援従事者初任者研修	合同講義9/14. 15、集合講義9/26 演習 10/5・6、10/26・27、11/9・10	講師 パネラー 司会他	濱口
	相談支援従事者現任研修	7/12~14、9/6~8		
	東播磨圏域フォローアップ研修	12/1		
西宮市	相談支援従事者初任者研修	12/21	講師	濱口
加古川市	手をつなぐ育成会 総会「加古川のGHIについて考える」	4/23	講師	濱口
兵庫県	自閉症協会 加古川高砂ブロック総会「こどもたちの未来に向けて」	4/25	講師	濱口
基幹相談支援センター	職員研修「課題抽出の役割について」	4/26	講師	濱口
兵庫大学	保育学科 3年 実習前研修「障害児福祉と記録」	5/12	講師	濱口
みちしるべ神戸	元気の会「子どもたちの未来に向けて」	6/13	講師	濱口
兵庫県	肢体不自由特別支援学校PTA連絡協議会夏季研修「車いすでいってみたいよ～」	6/27	講師	濱口
東はりま特別支援学校	進路研修「福祉サービスの利用について」	7/5	講師	濱口
加古川市	自立支援協議会しごと部会事業所意見交換会「就労系事業所と相談支援事業所の相互理解をすすめる」	7/19	コーディネーター	濱口
高砂市	地域福祉リーダー養成講座「身近な福祉の相談役として」	7/21	講師	濱口
播磨町	自立支援協議会 全体会「学校現場に求められること」	7/26	コーディネーター	濱口
第64回兵庫県	人権教育研究大会東播磨大会 分科会第6分科会 共生と人権	7/29	コーディネーター	濱口
加古川養護学校	センター的機能研修会「特別支援の輪をつなぐ」	8/1	パネラー	濱口
あしたば家族会	研修「65歳問題について」	8/29	講師	濱口
加古川中学	エリアユニット合同研修会「福祉と教育の連携について」	8/18	講師	濱口
高砂市	手をつなぐ育成会 研修会「これからの生活を考える」	8/24	講師	濱口
高砂市	人権教育研修「将来を見据えた支援と関わり」	8/24	講師	濱口
兵庫県	てをつなぐ育成会 地域生活援助者養成講座「支援の基本」	8/29	講師	濱口
あいサポートセンター	フォローアップ研修「最新の福祉情報について」	9/10	講師	濱口
精神保健福祉センター	地域移行研修会「地域移行について」	9/27	講師	濱口
加古川市立加古川公民館	家庭教育学級「こぼと」座談会悩み事相談	9/28	講師	川崎
加古川市	家庭教育学級 翔の会「相談支援と一緒に歩む暮らし」	10/13	講師	濱口
中・西播磨	家族ネット 研修会「子どもの将来に向けて」	10/18	講師	濱口
精神保健福祉センター	地域移行研修会「精神障害者を支える地域資源について」	10/20	講師	濱口
明石保健所	地域移行研修会「精神障害者を支える地域資源について」	10/30	講師	濱口
東加古川病院	家族会 研修会「自分らしい地域生活を送るための福祉サービスの活用法」	11/4	講師	川崎
てらだ	地域啓発セミナー「今、私たちにできること」	11/11	講師	濱口
兵庫県	肢体不自由特別支援学校PTA連絡協議会冬季研修「ホントに役立つ、将来のこと」	11/14	講師	濱口
29年度	地域生活チャレンジ研修「地域で住み続けるために」	11/28	講師	濱口
基幹相談支援センター	虐待防止研修「障害者虐待にどう対応するか」	12/22	講師	濱口
野口公民館	家庭教育学級「障害福祉の新しい方向性について」	1/19	講師	濱口
高砂市	肢体不自由児父母の会 研修会「玉木的幸福論」	1/20	コーディネーター	濱口
高砂社協	精神保健福祉ボランティア講座「共に生きる地域づくりとは」	1/24	講師	濱口
神河社協	地域研修会「障害のある方の特性理解と生きづらさを知る」	1/27	講師	濱口
加古川保健所	難病患者在宅療養支援研修会「障害児・者を取り巻く制度」	1/29	講師	濱口
基幹相談支援センター	相談支援スタートダッシュ研修「相談支援の展開について」	1/30	講師	濱口
播磨町協議会	全体会「合理的配慮って？なに」	1/31	講師	濱口
東播磨・淡路地区	精神保健福祉研修会「本人も家族も安心 支えるしくみ」	2/17	講師	濱口
播磨町教育委員会	就学サポート会議「つながりは育ちを支える！」	2/20	コーディネーター	濱口
基幹相談支援センター	事例検討会「事例検討の進め方」	2/13	講師	濱口
基幹相談支援センター	虐待防止研修会「あなたの事業所で“虐待”をどう防ぐか？」	3/1	講師	濱口
月間ケアマネジメント	6月号 7月号「高齢障害者のケアマネジメント」		寄稿	濱口

# 平成 29 年度 ひょうご発達障害者支援センター 事業報告

平成 30 年 3 月 31 日

## I 県レベル的活動

### 1 重点的取り組みに対する総括

#### (1) 発達障害支援体制の構築に向けた取り組み

##### ① 家族支援の事業展開

家庭療育支援講座（ペアレントトレーニング）をこれまで市町を中心に実施していたが、児童発達支援事業所等の児童支援機関にも実施する方向で進めた。ひきこもり家族支援プログラムの普及と研修実施は、クローバー内で作成したプログラムの実施を進める一方、市町保健センター等への研修会を実施、普及を図った。ペアレントメンター事業については、県自閉症協会と共催で講演会、相談会を実施し、また、関係機関からの講師派遣依頼等の調整を行い、普及に努めた。

##### ② 就労前段階の当事者支援プログラムの普及

発達障害サポーター養成講座（成人期）において、プログラム内容の説明を行い 30 年度より、実施機関の募集を行う旨周知を図った。興味を示される機関もいくつか見られた。次年度は啓発を進めていき、希望機関にはコンサルテーションとして実施できるよう支援に入っていきたい。

##### ③ 市町での相談体制の維持と支援に向けた取り組み

窓口が未整備だった市町もすべて設置され、40 市町すべてで窓口が置かれた。日々の相談と合わせて市町窓口職員研修会を行い、身近な市町で相談を受けることが出来る体制作りを進めることが出来た地域も多くなってきている。

##### ④ 発達障害サポーター養成講座受講者へのフォロー体制の強化

フォローアップ研修を児童期、成人期ともに実施し、それぞれ 23 名と 17 名の参加があった。参加者からのニーズが高いため毎年フォローアップ研修会を継続実施している。

##### ⑤ 一般市民への啓発活動の発展

発達障害サポーター養成講座 一般コースを行い、183 名の参加があった。当事者や企業の講演がないようであったが、一般の方の参加が多く見られた。

##### ⑥ 支援機関への支援体制作り

機関コンサルテーションは、全県で 254 件実施した。実際の支援現場で支援方法を一緒に検討、助言を行うため、現場に助言が受けられる等好評で当たった。発達障害者支援センターの支援機関への支援の形として重点的に取り組んでいきたい。

##### ⑦ 医療機関連携を始めとした発達障害支援機関のネットワーク構築に向けた取り組み

県発達障害者支援協議会に参画し、支援体制構築のための協議に提言等を行う。他にも各地域で行われる会議への出席を行い、地域の支援体制作りに向けて提言を行った。

#### (2) スタッフの支援技術の向上

約月 1 回行っているランチ調整会議の中で、日々の相談の中で難しい事例や運営面で困難なことがある場合、意見を出し合い、解決方法を模索している。

外部講師を招聘しての研修は、日程の都合で実施できず。次年度早々に実施する方向で検討。

## 2 事業実施状況

### (1) 研修(実 8 回 延 14 回、延参加者数 783 人)

〈参考:研修会詳細〉 ( )内は共催機関名 【】 実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
5.13	発達障害サポーター	1 日目	41
6.24	養成講座	講義「子どもの行動の理解と関わり」、演習「疑似体験」	
7.22	専門コース 児童期	講義「アセスメント—子どもの姿」、演習「援助の仕方」	
8.26	(兵庫県)	ワーク「子どもの姿」と説明	

	【たちばな職員 研修センター】	ひょうご発達障害者支援センター 主任相談支援員 橋本美恵  2日目 講義「こども達の発達を支援するために～小児科医からお願いしたいこと～」 姫路市総合福祉通園センター 医師 小寺澤敬子氏 ワーク「シートから関わりの工夫と配慮を考える」 センター、ランチ職員 個別支援計画策定の説明 センター 職員  3日目 講義 「子どもの育ちを支える家族への支援」 立正大学 心理学部 臨床心理学科 教授 中田洋二郎 氏 講義「ペアレントメンター(保護者)の経験談」 ペアレントメンター 講義「個別支援計画の策定」 東はりま特別支援学校 教諭 松井恵子 氏  4日目 見学研修 発達障害者支援センター 東はりま特別支援学校 姫路市総合福祉通園センター つくし児童園 県立こども発達支援センター  5日目 講義「子どもが育つみちすじ～内面の豊かな発達をめざして」 大阪人間科学大学名誉教授・精神科医 服部祥子 氏 発表「個別支援計画」 東はりま特別支援学校 教諭 松井恵子 氏	
7.22	発達障害サポーター 養成講座 児童期 フォローアップ講座 【たちばな職員研修センター】	講義 「子どもの育ちを支える家族への支援」 立正大学 心理学部 臨床心理学科 教授 中田洋二郎 氏 講義「ペアレントメンター(保護者)の経験談」 ペアレントメンター	23
7.22	発達障害サポーター 養成講座 成人期 フォローアップ講座 【たちばな職員研修 センター】	講義 「子どもの育ちを支える家族への支援」 立正大学 心理学部 臨床心理学科 教授 中田洋二郎 氏 講義「ペアレントメンター(保護者)の経験談」 ペアレントメンター 講義「ストレスマネジメント講座※について～内容と実施支援～」 ひょうご発達障害者支援センター相談支援員 山内雅樹	17
6.9	家庭療育支援講座研修会 【高砂市ユニーアイ福祉交流 センター】	講義「家庭療育支援講座(ペアレントトレーニング)概要説明」 ひょうご発達障害者支援センター 橋本美恵 講義「家庭療育支援講座の意義 心理社会的支援としてのペアレント・トレーニング」 奈良教育大学 特別支援教育研究センター 式部陽子 氏 演習 「サポートブック」作成、「てつづき作成表」作成 説明 公募の仕組み、3年間の単独開催とシステム化に向けて 意見交換 実施の報告と感想	34
12.2	幼児期支援者研修会 (姫路市総合福祉通園センター) 【姫路市役所】	基調講演: 「保護者支援について ～子育ての良きパートナーとなるために大切なこと～」心 身障害児総合医療療育センター 臨床心理科 臨床心理士 三浦幸子 氏 パネルディスカッション 実際の保護者への関わりを考える ～事例を通して～ ①現場より(保育所の場合)、②現場より(幼稚園の場合)、 ③ディスカッション 姫路市立保育所 保育士、播磨町立幼稚園 教諭 アドバイザー:三浦幸子 氏 司会及び事例提供: 姫路市総合福祉通園センター ルネス花北 発達相談室長 奥村由紀 氏	85



H29 12.11	発達障害 サポーター 養成講座 一般コース (兵庫県)	【中央労働 センター】	「分かってほしい発達障害のこと」 ひょうご発達障害者支援センター センター長 和田康宏	56
H30 1.28		【のじぎく 会館】	「発達障害のある人の就労支援」 近畿大学 教職教育部 准教授 向後礼子 氏 講義「発達障害について」 ひょうご発達障害者支援センター センター長 和田康宏 講義「発達凸凹 働くうえでの適応術」 DDAC(NPO 法人 発達障害をもつ大人の会)代表 広野ゆい 氏 講義「発達凸凹のある人の活躍できる職場づくり」 URJリサーチ&コンサルティング 汐留陽子 氏	127
12.15	保健所、保健センター研修会 【学校厚生会館】		講義「ひきこもりの家族支援～CRAFT の応用」 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 准教授 境泉洋 氏 実践報告「クローバーCRAFT プログラムの地域展開 ～ASD 特性を背景とするひきこもり状態にある人の家族支援～」 兵庫教育大学附属 発達心理臨床研究センター 協力研究員 平生尚之 氏	18
H30 1.8 2.8 3.9	発達障害サポーター 養成講座 専門コース 成人期 (兵庫県) 【学校厚生会館】		1 日目 講義「発達障害と精神疾患—鑑別の困難さと対応—」 揖保川病院 副院長 中井祥博 氏 講義「発達障害の心理アセスメント—心理検査を用いて—」 演習「アセスメントのためのフォーマットの練習」 ひょうご発達障害者支援センター 相談支援員 山内雅樹 2 日目 講義「成人期の支援と状況」 ひょうご発達障害者支援センター 和田康宏 講義「就労支援—相談、評価、ジョブマッチング、定着支援について—」 兵庫障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 新谷正樹 氏 講義 演習「支援方法 ストレスマネジメント」 「支援方法 問題解決」 「支援方法 対人スキル支援」 兵庫教育大学 特別支援教育専攻・障害科学コース 教授 井澤信三 氏 3 日目 兵庫障害者職業センター、社会福祉法人 すいせい、高岡病院 ひょうご発達障害者支援センター(センター、ランチ) 4 日目 講義「ストレスマネジメント講座について」 ひょうご発達障害者支援センター 山内雅樹 講義「グループワークの進め方」,グループワーク「5分レポートの演習」 講義「ケース検討会議の進め方」,グループワーク「ケース検討会議の演習」 講評・質疑応答・意見交換 大正大学 心理社会学部 臨床心理学科教授 近藤直司 氏	37

※全日程修了者(補講での受講も含む)、見学研修受講者も含む

(2) 講師派遣(県レベル機関の研修会、就労支援に関する講師派遣など)

(延 25 件 延参加者数 1169 人)

【労働】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
5.12	兵庫労働局 発達障害に関わる職員研修 「発達障害のある人の支援」	39	和田	神戸
6.14	兵庫労働局 発達障害に関わる職員研修	38	和田	神戸

	「発達障害のある人の支援」			
9.26	西播磨 障がい者雇用セミナー「発達障害のある人の就労支援」	70	和田	西播磨
11.28	訪問型職場適応援助者養成研修会「障害特性に応じた就業支援の方法」	25	和田	阪神南

### 【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
7.1	たつの市保育協会「子どもの行動の理解と関わり 現場の実践から」	50	橋本	西播磨
7.13	しんしょうこんケアステーション 行動援護支援者養成研修 「コミュニケーションの理解」、「アセスメントについて」	16	和田	中播磨
8.4	赤穂市 家庭療育支援講座「実施に向けて」	2	橋本	西播磨
9.10	NPO法人 パレット 行動援護従事者養成研修 「こんなことで困っています」「アセスメントについて」	16	和田	神戸
9.5	障がい者支援施設 リバティ神戸 職員研修「自閉症 発達障害の基本的な理解」	34	和田	神戸
10.17	障がい者支援施設 リバティ神戸 職員研修「自閉症 発達障害の基本的な理解」	25	和田	神戸
11.1	障がい者支援施設 リバティ神戸 職員研修「自閉症 発達障害の基本的な理解」	15	和田	神戸
11.10	中央こども家庭センター職員研修「発達障害児とその保護者の理解と関わり」	40	橋本	神戸
12.18	兵庫県強度行動障害支援者養成研修 実践研修 「障害特性とアセスメント」	139	和田	神戸
12.19	兵庫県強度行動障害支援者養成研修 実践研修 「障害特性とアセスメント」	139	和田	神戸
H30.2.6	市町職員 隣保館職員人権研修会「発達障害の理解と支援」	85	和田	神戸
H30.2.16	書写ひまわりホーム職員研修「食事と料理 家庭療育のすすめ」	30	橋本	中播磨
H30.2.16	こども発達支援センター 市町連絡会「ひょうご発達障害者支援センターについて」	45	和田	神戸
H30.3.15	NPO 法人 いまじん「発達障害の子どもへの関わり」	7	杉原	中播磨
H30.3.28	書写ひまわりホーム職員研修「幼児期から成人期の療育」	48	橋本	中播磨

### 【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
8.18	県特別支援教育センター 特別支援教育コーディネーター研修「発達障害のある子どもの就労支援の現状と課題」	187	和田	神戸
9.1	近畿大学学生相談研究大会「外部団体における就労支援」	19	和田	県外
H30.2.16	兵庫県介護福祉士養成校研修会「発達障害の学生への支援」	16	和田	神戸

### 【家族】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.22	NPO 法人ピュアコスモ「就労の入り口と選択」	35	和田	神戸
H30.2.4	兵庫県 LD 親の会 たつの子 研修会「発達障害の就労～就労を目指す為の知識と対策～」	29	和田	中播磨

### 【その他】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
H30.2.7	兵庫県社会保険労務士会 西脇支部研修会「発達障害について」	20	和田	北播磨

(3) 刊行物の発行

内容	部数
発達障害、発達凸凹について「発達支援サポーター養成講座 一般コース案内」	3,000

(4) 研究発表、論文、分担執筆等

内容	担当
あかりの家 事例研究会「ひょうご発達障害者支援センター 実践事例集」	橋本、杉原、山内

(5) ホームページの運営、管理

内容	概要(件数、内容他)
更新回数	29回(研修会情報等)

3 県委託事業

事業名	内容
発達障害サポーター養成研修	・発達障害サポーター養成研修(一般コース、専門コース 児童期、専門コース 成人期)の実施

4 調査・研究

- ・「発達障害のある成人期の就労前段階支援に関するモデル事業」
  - ①就労前段階の状態にある利用者への支援モデル作り、②ひきこもり状態にある利用者の保護者への支援モデル作り プログラムの共有(センター、全ブランチで実施、支援ができるよう内容の共有を行う)
- ・児童発達支援事業状況実施調査 ①選び方ガイドづくりのための施設見学を行う、②選び方ガイド試案作成

5 機関会議

(1) 運営・連絡協議会の実施 実施回数(延4回)

協議会名	回数	日時	場所	内容	参加者数
運営協議会	第1回	7/11	県中央労働センター	・前回議事録承認 ・H28年度 事業報告 ・H28年度研修会会計報告・人事について	8団体 24名
	第2回	H30 3/5	県民会館	・前回議事録承認 ・H28年度活動状況報告 ・H30年度 事業計画についての意見	11団体 28名
連絡協議会	第1回	7/11	県中央労働センター	・H28年度 事業報告 ・討議「市町経由相談について」	19団体 36名
	第2回	H30 3/5	県民会館	・H30年度 事業計画・H29年度活動状況報告 ・討議「日々の相談から 非行」 ・行政機関による H30年度 事業計画	21団体 38名

(2) ネットワーク会議等への出席 実施回数(延22件)

主な会議名	役割	担当
厚生労働省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議	委員	和田
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 役員会	副会長	和田
兵庫県 発達障害者支援協議会	委員	和田
発達障害者支援協議会 生活支援部会	委員	和田
発達障害者支援協議会 医療部会	委員	和田
発達障害者支援協議会 教育部会	委員	杉原
障害者雇用・就業支援ネットワーク会議	委員	和田
発達障害者等就労支援連絡協議会	委員	和田
ひょうごユースケアネット推進会議 代表者会議	委員	和田

ひょうごユースケアネット推進会議 実務者会議	委員	杉原
障害者自立支援協議会相談支援部会	委員	和田
広域特別支援教育連携協議会	委員	和田
特別支援教育就労移行推進協議会	委員	和田

## 6 ブランチ業務調整会議（年9回 兵庫県障害福祉課 参加）

・センター各ブランチ間の業務上の調整、意見集約、関係機関情報の集約、活動に対する意見交換等を行う

## II ブランチ的機能(担当圏域:東播磨、淡路)

### 1 重点的取り組みに対する総括

#### (1) 市町相談支援体制の円滑な実施のための調整、形作り

東播磨圏域の相談窓口とは個々の相談に対し、調整会議や電話で細かく相談者について確認し、相談内容の確認及び窓口との役割分担を行い、円滑に相談が図れることに力を入れた。また、窓口担当職員に研修会を行い、相談表を通した聞き取りの仕方や、面談の留意点等の講義を行い、窓口対応に生かしていただくようにした。

淡路圏域は、相談支援員が支援に入られている中で、対応が難しい事例において相談をもらい、一緒に支援を行うようにした。

#### (2) 相談者への丁寧な支援と実践を積み重ねる

一人当たりの相談回数が増加している(H28年 4.3回、H29年 5.0回)。一人ひとりの相談を複数回行う事例が増えている。特に、複数の機関と一緒に支援を行う事例が増えており、方向性の共有を図りながら丁寧に支援を行っている。

### 2 個別支援

#### (1) 相談・発達・就労支援状況

##### ① 相談支援（実 375 人、延 1,468 件）

幼児期では診断前後の相談が多く、日々の育てにくさを感じどのように関わればよいか、小学校への引継ぎをどうするかという内容が多かった。小学生は、中学校での学びの場をどうするか、保護者への支援をどうしていったらよいかという相談が多く見られた。中学生はスクールソーシャルワーカーや市の担当者等からの紹介で入ってくる事例が増えた。内容は兄弟で不登校の事例や進路など、相談の後に個別調整会議を行う事例が多く見られた。

成人期の相談は、就業に向けて福祉サービス事業所での訓練状況の確認や、就業先の選択、調整を行うことが多かった。また、継続相談は引きこもり状態の相談事例が多く、家庭で出来ることを家族に助言することが多かった。

家庭基盤が弱い家族の相談が見られ、対応方法を伝えるだけでは難しく、関係機関との支援の調整を行う事例が見られた。義務教育終了後以降では、非行、触法事例等、支援ニーズが高い事例も多く見られた。

##### ② 発達支援（実 74 人、延 384 件）

前年比で実人数、延件数ともに増加している。幼児、学齢期の児童に対して、個別に課題を通して子どもへの関わりを保護者へ指導助言した。また、発達支援を行っている保護者を対象にした勉強会を月 1 回行い、子どもの理解を深め、お互いの関わりを話し合い、大人になっていくことの視点を持って学びを深め、実際の生活と子育ての中で活かせるようにした。先輩の保護者の話を聞く機会を設けたり、互いの意見交換の場となり、保護者の気持ちの変化は大きく、子育てへの姿勢が変化した人が多かった。

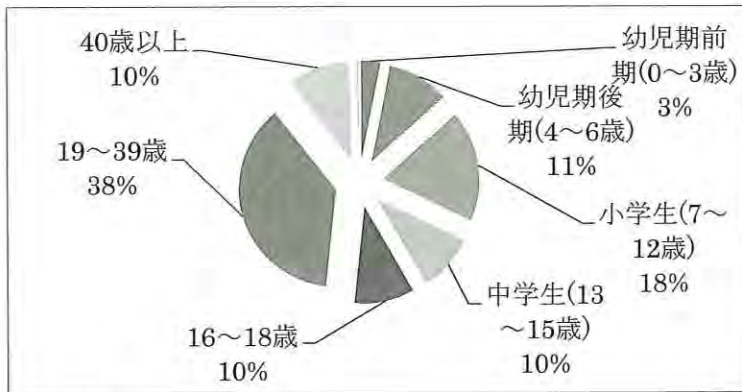
中学生の事例では、子どもの理解を深めるために検査を実施し、フィードバックを行った。高校生以降ではグループ活動を行った。当事者には作業課題を設定することで今後の就労についてイメージを持つことに繋げたり、小さな集団での活動へ参加することの意味が大きかった。保護者に対しては、活動の様子を報告することで子ども理解に繋げたり、卒業後の進路について話し合う場となった。

##### ③ 就労支援（実 45 人 延 164 件）

前年比で実人数、延件数ともに増加している。就職者への就業中の状況把握を行う相談が多かった。就職の方法について、障害の開示、非開示の検討や、就労までに必要なことを確認することが多い。既就労者が職場で課題が出たとき企業へ訪問し、障害特性から考えられる改善方法などを伝え調整する。

(参考データ)

(a) 相談支援(実人数)



(b) 発達支援(実人数)

幼児期前期(0～3歳)	4	5
幼児期後期(4～6歳)	25	34
小学生(7～12歳)	24	32
中学生(13～15歳)	2	3
16～18歳	12	16
19～39歳	6	8
40歳以上	1	1
不明	0	0
合計	74	100

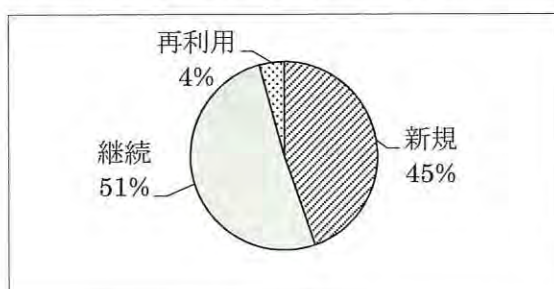
(c) 就労支援(実人数)

18歳以下	4
19～39歳	43
40歳以上	13
合計	60

(d) ライフステージごとの障害種別(相談支援実人数)

障害種別	幼児期前期(0～3歳)	幼児期後期(4～6歳)	小学生(7～12歳)	中学生(13～15歳)	16～18歳	19～39歳	40歳以上	合計
自閉症(知的障害の有無不明)	0	5	2	3	0	3	0	13
自閉症(知的障害を伴う者)	4	9	11	3	3	9	0	39
自閉症(知的障害を伴わない者)	0	4	3	0	1	4	1	13
アスペルガー症候群	0	1	3	3	8	16	7	38
広汎性発達障害(知的障害の有無不明)	1	2	10	2	4	16	5	40
広汎性発達障害(知的障害を伴う者)	0	2	7	3	1	11	1	25
広汎性発達障害(知的障害を伴わない者)	1	0	7	6	6	16	3	39
AD/HD	0	1	3	2	1	7	1	15
LD	0	0	1	1	0	4	0	6
その他(発達性言語障害・協調運動性障害)	2	4	4	4	0	12	3	29
不明(未診断も含む)	4	11	18	9	14	43	18	117
合計	12	39	69	36	38	141	39	374
「不明(未診断も含む)」割合	33%	28%	26%	25%	37%	30%	46%	31%

(e) 新規・継続・再利用の内訳(相談支援 実人数)



## (f) 年齢ごとの相談主訴

	幼児期 (0～6歳)	小学校 (7～12歳)	中・高校 生	19歳 以上
相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	6	5	1	11
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	32	34	34	66
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)	3	1	0	7
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	3	5	8	30
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	10	18	28	31
進路や将来の生活に関する相談をしたい	9	15	17	22
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	8	13	5	22
今後の就労について相談したい	0	0	0	18
現在勤めている職場に関する相談をしたい	0	0	2	3
その他	4	6	10	19
計	75	97	105	229

## (2) 普及啓発・研修

## ① 研修

○実施回数(実 3回 延 3回 参加者数 40人)

研修会名	共催	参加人数
ペアレントメンター講演会(芦屋)	兵庫県自閉症協会	13
市町発達障害窓口研修(東播磨)		14
ペアレントメンターフォローアップ研修		13

## ② 講師派遣

○実施回数(延 14件 延参加人数 419人)

## 【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
9.22	稲美町学童保育研修会	30	橋本	東播磨
10.19	ハンズ明石「発達障害のある人の就労 定着支援について」	19	和田	東播磨
12.14	播磨町民生委員児童委員協議会「発達障害とは？」	67	山内	東播磨
H30.1. 18	学童保育播磨南小学校「2人の児童への関わり」	4	橋本	東播磨
H30.2.22	播磨町学童保育研修会 「発達支援について」	20	橋本	東播磨

## 【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
7.20	加古川市平岡幼稚園グループ「子どもの理解と関わり」	20	橋本	東播磨
8.2	兵庫大学健康管理センター講演会「みんなできとくむ学生支援」	40	杉原	東播磨
9.11	兵庫地区大学月曜懇談会「発達障害のある学生の支援を考える」	38	杉原	東播磨
12.20	播磨町特別支援教育研修会「支援員研修」	25	橋本	東播磨
H30.1. 10	播磨幼稚園「子どもの気持ちになっていっしょにやってみませんか 就学を見据えて」	80	橋本	東播磨

## 【家族】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
11.24	淡路わたぼうし保護会「サポートブックを知ろう①」	12	橋本	淡路
H30.1. 15	淡路わたぼうし保護会「サポートブックをつくろう②」	14	橋本	淡路

【一般】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
9.19	高砂市発達障害ボランティア養成講座「発達障害の基本的理解」	25	和田	東播磨
9.26	高砂市発達障害ボランティア講座「コミュニケーションのとり方」9.26	25	橋本	東播磨

③機関コンサルテーション

(a) 関係機関へのコンサルテーション 実施回数 (実 1か所 延件 )

職員の対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。

実施対象機関	圏域	日程	担当
高砂市 ひまわり高砂 荒井中学校 みどりが丘保育園 美保里こども園	東播磨	4.24	和田
		7.6	杉原
		12.12, H30.1.12	橋本
		5.10	橋本
播磨町 播磨小学校 播磨南小学童保育 播磨西幼稚園 播磨幼稚園 蓮池幼稚園		6.14	橋本
		7.13	橋本
		5.19,10.19,11.30	橋本
		6.22,8.7	橋本
稲美町 母里幼稚園 バンビ第2 保育園 天満幼稚園 加古保育園 天満南幼稚園		6.29,9.14,11.16	橋本
		5.18	橋本
	7.14	橋本	
	4.21,6.20,9.22,11.20,H30.2.1	橋本	
	5.25,9.13	橋本	
淡路市 大町小学校	淡路	7.19	橋本
赤穂市 赤穂あしたば園	西播磨	12.4	杉原
		7.19,8.4,9.5,11.2	橋本

(b) 家庭療育支援講座 実施回数 (実 2か所 延 13 件)

講座実施に当たり、保健師等のスタッフへの技術付与を訪問により実施

実施対象機関	圏域	日程	担当
高砂市健康増進課、高砂児童学園	東播磨	8.29,9.28,10.12,10.26,11.9,12.21,H30.3.6	橋本
赤穂市保健センター	西播磨	9.5,10.6,10.13,10.27,12.1,12.7	橋本

(3) 機関連携

① 発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席

実施回数 (延 19 件)

会議名	役割	担当
播磨東地域特別支援連携協議会	委員	和田
加古川市 障害者雇用連絡会議	委員	和田
高砂市 地域自立支援ネットワーク会議 教育委員会	委員	和田
	専門家チーム委員	橋本
稲美町 就学サポート会議	委員	橋本

② 個別調整会議 実施回数 (延 37 件)

前年度より 10 件増加している。19 歳以上が 6 割を超えている。関係機関と一緒に支援を行うことが増えているおり、調整会議の増加につながっていると思われる。

### ③付置施設 あかりの家との連携

	内容	
児童デイ サービス あかりの家	・継続的な専門的療育を行うことが有用と思われる事例	(自閉症、軽度知的障害)
障害者支援施設 あかりの家 日中一時支援	・ひきこもりの状態から就労体験の場としての利用	(広汎性発達障害)
障害者支援施設 あかりの家 地域支援室	・福祉サービスの利用が必要な事例について、相談支援専門員と連携をした事例が多数。 ・サービス等利用計画の作成において連携した事例。	

## 3 職員体制

(1) 相談時間 (月)～(金)の平日 9:00～17:00

(2) 担当

① センター長	就労支援 担当	和田 康宏
② 主任相談支援員	発達支援 担当	橋本 美恵
③ 相談支援員	発達支援 担当	杉原 利恵
④ 相談支援員	相談支援 担当	山内 雅樹

管理責任者 坊垣 勝彦(あかりの家 副施設長 兼務)

(3) 職員研修

研修名	日付	受講者
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 研修会	6.3～6.4	和田
発達障害医学研修	7.5～7.6	和田、橋本
ユースケネット推進会議 研修会	9.6	杉原
全連協 近畿ブロック研修会	12.16	和田、山内

(4) 職員の資格・免許取得状況(含、任用資格、受講証明)

資格・免許	人	資格・免許	人
臨床心理士	2	臨床発達心理士	1
特別支援教育士	1	教諭	3
社会福祉主事	1	保育士	1
新版 K 式発達検査中級研修修了	1	WAIS- III 知能検査研修受講	1



## I 利用者状況

## 1 定員と契約者数

事業種別	定員	契約者数
(1) 生活介護事業	12人	14人
(2) 就労継続支援B型事業	28人	29人
合計	40人	43人

## 2 市町別契約者数

市町	生活介護事業	就労継続B型事業	計
高砂市	7人	19人	26人
加古川市	1人	3人	4人
播磨町	1人	2人	3人
小野市	0人	1人	1人
姫路市	5人	4人	9人
合計	14人	29人	43人

## 3 利用者年齢構成

## (1) 生活介護事業

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男	0	2	0	2	2	3	1	1	0	11	
女	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3	
合計	0	2	0	2	4	3	2	1	0	14	

	男性	女性
最少年齢	21歳9ヶ月	37歳0ヶ月
最高年齢	51歳4ヶ月	48歳5ヶ月
平均年齢	37歳9ヶ月	41歳5ヶ月
男女平均年齢	38歳7ヶ月	

## (2) 就労継続支援B型事業

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男	1	1	9	5	3	1	1	1	0	22	
女	0	0	0	0	4	3	0	0	0	7	
合計	1	1	9	5	7	4	1	1	0	29	

	男性	女性
最少年齢	19歳0ヶ月	35歳4ヶ月
最高年齢	54歳0ヶ月	43歳10ヶ月
平均年齢	32歳2ヶ月	39歳3ヶ月
男女平均年齢	33歳10ヶ月	

#### 4 利用延べ人数等

##### (1) 生活介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
延人員	265	295	287	280	294	287	297	287	285	238	261	295	3371

##### (2) 就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	33	33	32	31	30	30	30	30	30	30	29	29	367
延人員	653	714	654	640	641	646	648	640	638	565	565	629	7633

##### (3) 利用者の入退所の状況（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

①生活介護事業・・・入退所なし

②就労継続B型事業・・・ 5月31日付 1名退所

6月30日付 1名退所

7月31日付 1名退所

1月31日付 1名退所

※平成29年度内4名退所、入所なし

#### 5 障害支援区分

##### (1) 生活介護事業

	区分3	区分4	区分5	区分6	計(人)
高砂市	1	0	3	3	7
加古川市	0	1	0	0	1
播磨町	0	1	0	0	1
姫路市	0	2	1	2	5
	1	4	4	5	14

##### (2) 就労継続支援B型事業

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計(人)
高砂市	4	0	4	8	2	0	1	19
加古川市	0	0	0	2	1	0	0	3
播磨町	0	0	2	0	0	0	0	2
姫路市	2	0	0	1	1	0	0	4
小野市	0	0	0	0	0	1	0	1
	6	0	6	11	4	1	1	29

#### 6 知的障害の程度（「療育手帳」の判定による）

区分	重度	中度	軽度	なし	合計(人)
男	18	11	4	0	33
女	7	3	0	0	10
計	25	14	4	0	43
比率	58%	34%	8%	0%	100%

#### 7 自閉症または自閉的傾向を有する者（入所時の諸書類をもとに集計）

区分	男	女	計
人員	17/33	2/10	19/43人
比率	51.5%	20%	44.1%

## 8 その他の障害、てんかん

区 分			男 (人)	女 (人)	計 (人)	総計 (人)
身 障	肢体	手帳所持	1 (2種6級)	0	1	2
	難聴	手帳所持	1 (1種2級)	0	1	
精神科薬		てんかん	5	0	5	5
延べ人数			7	0	7	7

## 9 利用者の通所方法

方法 利用者		徒 歩	自 転 車	バ ス	J・R	バスと J・R	山 陽 電 車	付添 通所
男	33	9	8	1	2	0	2	11
女	10	1	2	0	2	0	2	3
計	43	10	10	1	4	0	4	14

## Ⅱ 生活支援

### 1 日課

8:50	来所
9:00	作業
10:30	休憩 (15分) ※夏場は30分毎に水分補給
12:00	昼食 (60分)
13:00	作業
15:00	休憩 (15分) ※夏場はスポーツ飲料を提供
17:00	全作業終了、帰宅

### 2 余暇等の活動

#### ① 昼休憩の過ごし方

休憩は「食堂兼休憩室」及び、更衣室で各自の好みの場所で自由にとっている。なお、自閉症の方については、落ち着ける環境を整える必要性から「会議室」や「静養室」を活用するほか、食堂内に固定の席を設けるなどの工夫を行っている。昼休憩が唯一のくつろげる時間となっていることから、昼食後にコーヒーや紅茶を楽しんでいただけるよう“わーくわく喫茶”をオープンした。

#### ② 休息時間の過ごし方

音楽、、ゲーム、絵描き、談話等、利用者の興味や関心に合わせ自由に過ごせるように配慮するほか、自由な時間を過ごすことが苦手な利用者には、職員が話題、課題等を提供し、会話や余暇を楽しんでいただけるように配慮した。

### 3 クラブ活動・サークル活動

#### ① 料理教室

昨年度の料理クラブとは異なり、今年度は生活の自立や社会性を培うことをテーマに利用者を絞った。男性利用者4名、女性利用者4名が、2名のボランティアの支援を得て、包丁の扱い方、言葉遣い等を学びながら、季節の食材を利用した調理に挑戦した。(曾根公民館にて計12回 毎月1回実施)  
(ボランティア:魚橋さん、崎田さん)

#### ② サークル活動

余暇活動の一環として月に2回(水曜日)、作業終了後の15:30~16:30までの約1時間、サークル活動を実施した。サークル活動は最初に「スポーツ」「文化」の2種類に大きく分かれ、そこから利用者の意見を取り入れながら、サッカー活動、園芸活動など内容に変化を持たせて実施した。

#### 4 行事関係

##### (1) 主な年間行事

4月	お花見会
5月	① のじぎくスポーツ大会（陸上） ② ばんたん親善運動会
9月	一泊旅行（名古屋）
10月	五色精光園祭（納豆販売）
11月	ばんたんゆうあい文化祭（見学）
12月	保護者会クリスマス会
3月	お疲れさん会

##### (2) 一泊旅行

平成29年9月3日、4日、利用者42名、職員11名が大型バス1台を貸し切り、5年ぶりの一泊旅行を実施し、名古屋旅行を楽しんだ。行き先は「トヨタ産業技術記念館」「名古屋港水族館」で、各見学施設では、5グループに分かれて班行動をして楽しんだ。「ホテルオリーブ」では、ほぼ全員がカラオケを披露するなど、楽しい一日を過ごした。また、入浴や睡眠を普段とは違うメンバーで行うことができ、貴重な機会となった。

##### (3) のじぎくスポーツ大会

5月27日（土）、三木市総合防災公園総合陸上競技場において4名の利用者が参加した。男性2名が800m走（壮年の部）、男性1名が800m走（青年の部）、女性1名が走り幅跳び（壮年の部）に参加。合計、金メダル2個、銀メダル1個を獲得した。

##### (4) ばんたん親善運動会

5月26日に、第29回ばんたん親善運動会が開催され、利用者6名と職員2名が参加。晴天の中、皆さん積極的に競技に参加され、また、他事業所の方との交流も深めることができた。

##### (5) ばんたんゆうあい文化祭

11月30日、姫路市文化ホールで「ばんたんゆうあい文化祭」が開催され、利用者12名と職員2人が見学参加した。

##### (6) おつかれさん会

3月28日に1年間の締めくくりとしておつかれさん会を実施した。全員にケーキと飲み物を配り、1年間の作業や行事等をスライドショーにして上映し一年を振り返った。

### Ⅲ 作業支援

#### 1 作業内容

- ① 作業は、ゴトウ・アズ・プランニング社との連携によるクリーニング作業のほか、自主事業として「納豆（なっとこちゃん）」（生活介護事業）の製造・販売を行った。
- ② クリーニング作業については、前年度までの作業種目別班分け体制を見直し、作業量に応じた作業ができるよう利用者一人ひとりの作業能力の開発に取り組むとともに、作業分析を行いその人に応じた作業環境や作業方法を取り入れ作業効率の向上に努めた。
- ③ 納豆作業については、生活介護事業に位置付けて7名の利用者で実施した。

主な販売場所は、スーパーYUMADA（阿弥陀店など4店舗）のほか、法人内事業所や周辺の福祉事業所、法人内職員をの協力を得て販売した。また、毎週日曜日に加古川カトリック教会内で販売させていただいた。なお、バザー等への出店については、次のとおり

- ・ 8月27日（日）「2017ユーアイ夏の交流会」職員のみで参加
- ・ 10月28日（土）五色精光園祭に利用者5名と職員2名で参加
- ・ 10月29日（日）加古川カトリック教会バザー

《便宜上の班分け及び主な作業内容》

ク リ ー ニ ン グ 班	仕分け	5人	大型洗濯機に投入する事前の仕分け作業。主として、シーツ類の仕分け
	シーツ	11人	シーツロール機等（シーツ乾燥・折りたたみ・結束等）、への投入や出荷管理
	タオル	8人	手作業によるタオルたたみ及び出荷管理
	たたみ	12人	衣類、布団、シーツ、タオル類のをたたみ、包装及び出荷管理
納豆班		7人	納豆の製造、販売、商品名「なっとこちゃん」

## 2 作業収入と工賃支給

	事 項	平成28年度	平成29年度	備 考
収 入	洗濯事業収入	15,091,818	18,546,456	ゴトウ・アズ・プランニング委託料
	納豆販売収入	3,298,062	3,553,790	自主生産事業
	公園清掃収入	0	62,500	高砂市からの委託料（楠公園清掃）
	本部会計より繰入	1,800,000	0	
	計	20,189,880	22,162,746	
支 出	工賃支給額	18,272,950	19,044,500	
	作業経費	1,875,820	2,613,123	賃借料・水道光熱費・納豆材料費等
	消費税	623,845	753,609	
	計	20,772,615	22,411,232	
	収支差額	▲582,735	▲248,486	

## 3 協力企業との関係

- ① クリーニング事業の協力企業・・・(株)ゴトウ・アズ・プランニング
- ② ワークホームの設立時は、株式会社MAO（オノエクリーニング51%、ゴトウアズプランニング49%出資の合弁会社）が協力企業であったが、平成22年にゴトウアズプランニングがオノエクリーニングの出資分を買い取り、協力会社はMAOからゴトウアズプランニングに変更となった。

### 《ゴトウアズプランニングとの話し合いについて》

平成29年度は、前年度から引き続き、安杖社長（ゴトウアズプランニング）と齋藤施設長、三原あかりの家施設長、藤原事務局長による現状の共有化と課題解決に向けた話し合いを計7回行った。

《会議開催日》	第1回	平成29年4月25日	第2回	平成29年6月23日
	第3回	平成29年8月25日	第4回	平成29年10月6日
	第5回	平成29年11月24日	第6回	平成30年2月6日
	第7回	平成30年3月20日		

## 4 作業環境の継続的改善

- ① 平成25年度から作業環境の改善に取り組み、ルーファンの設置（2カ所）、排煙窓の新設工事（東西北面）を実施した。
- ② 平成26年度は、シーツロール機の北側面に窓を新設し空気の入換えができる環境整備を実施した。
- ③ 平成27年度は、工場周辺のセメント舗装を実施し清掃がしやすい環境を整えたほか、工場内の安全通路の確保や立ち入り禁止区域の設定等、安全確保に重点を置いた環境整備を行った。
- ④ 平成28年度は、9月に駐車場を新たに新設し、仕分け班専用の更衣室を設置、施設内の電灯のLED化を完了、シーツ班投入機北側上部の窓を新たに増設、西側窓に遮光フィルムを貼る工事を行った。また、北側「松本商会」との賃借契約を3月末で解消した。
- ⑤ 平成29年度は工場清掃の効率化を目的に1階南側に引き戸の大型出入口を設けたほか、採光と風通しを目的に工場内汚染区域に大型サッシ2基を設置した。また、医療関連サービスマーク認定に備えて洗濯場と

仕上げ場の境界にビニールカーテンを設けるとともに、大型洗濯機の横と準汚染区域内消毒保管庫の横に手洗い場を設置するなど衛生環境の整備を実施した。

#### 5 工賃の考え方及び、「業績賞与」について

- ① 工賃については、「ワークホーム高砂工賃支給要領」に基づいて支給した。基本的な考え方としては、事業にともなう純利益を工賃財源とし、年2回（4月、10月）の工賃見直し評価を実施し、各自の作業能力を評価したうえで時間給に換算し、働いた時間数を掛け合わせて工賃を決める方法を採用した。
- ② 平成28年度後期から始まった「業績賞与」については、平成29年度においてもゴトウ・アズ・プランニング社から726,456円の業績賞与をしていただいた。

#### 6 医療関連サービスマーク認定更新について

医療関連サービスマークは平成15年度に初めて認定をうけ、3年に一度の頻度で更新してきている。平成29年11月14日、更新のため日本病院寝具協会の審査を受け、平成30年2月1日付で再認定していただいた。なお、これまではワークホーム高砂だけで認定踏査を受けていたが、本年度はゴトウ・アズ・プランニングの担当者と協力しながら審査に臨んだ。

#### 7 就労支援について

クリーニング作業については、設立当初から「シーツ班」「たたみ班」「仕分け班」「タオル班」の4つに班分けを行い利用者支援を実施してきた。しかし、平成29年度からは、作業班にこだわらない横断的な作業方法を取り入れ、利用者が様々な作業に挑戦できるよう環境を整えるなど丁寧な支援に努めた。その結果、利用者の作業可能種目が増えるとともに、作業効率が大幅にアップした。

### IV 健康管理・栄養管理

#### 1 健康管理及び保健衛生等

- ① 「保健衛生会議」を月1回開催し、嘱託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理に努めた。
- ② 利用者や職員の健康診断を実施し、その結果について井野嘱託医師から指導を受けた。
- ③ 作業場に温度湿度計を設置し作業環境の把握に努めた。特に夏場は、休憩（30分に1回）や水分補給を頻繁に行うなど、熱中症対策を重点的に行った。水分補給については、各利用者に水筒（平成28年度から保護者会より支給）1本をWHで配布し、各自の一日の水分量を職員が把握しながら水分管理を行った。また、作業場の気温が30℃を超える5月～10月にかけてスポーツ飲料（ペットボトル1本500ml、本年度から保護者会から提供）を配付し熱中症対策を行った。
- ④ 肥満の予防を図るため、定期的（2ヶ月に一回）な体重測定を行った。また、糖尿病の利用者については、糖尿病食を斡旋するなどの対策をおこなった。
- ⑤ インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染症対策については、看護師を講師とする学習会を開催し職員の知識を深めるとともに、対策として施設内での手洗いの励行やうがいを中心とした。また、手ピカジェルでの消毒や次亜塩素酸ナトリウムを使ってのトイレ清掃等についても昨年度から継続してを行った。
- ⑥ 井野先生の助言を受け、本年度もトイレ等の手洗い場についてはペーパータオルを使用した。
- ⑦ 定期的な健康診断と体重測定の実施
  - ・定期健康診断の実施（7月、1月（職員のみ））
  - ・「体重測定」の実施（4月、6月、8月、10月、12月、2月）
- ⑧ 歯科検診と歯磨き指導
  - ・加古川歯科保健センターから派遣される歯科衛生士による歯磨き指導（11月29日）、歯科検診（2月15日）を利用者全員が受け、その結果を家庭に知らせ、必要な人については歯科治療をお願いした。また歯科衛生士による歯磨き指導を契機として、昼食後の歯磨きへの関心を高めることに努めた。本年度についても特に口内の汚れが多かった5名の利用者については、職員が付き添い歯磨きを徹底的に行った。
- ⑨ 健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。また、受診に関して保護者の協力が得られにくい利用者については、職員が通院の支援を行った。

## 2 栄養・給食について

### 《給食委員会の開催》

利用者の昼食の充実と安心・安全を目的として、給食提供業者（有限会社ひでかつ給食）と給食委員会を2回開催した。

平成29年12月18日に開催した第1回給食委員会では、「ひでかつ給食」の責任者と管理栄養士を交えて意見交換を行い、お楽しみメニューを増やすなどの改善につなげた。

平成30年3月12日には、ワークホーム高砂の施設長と栄養士がひでかつ給食の工場に出向き作業現場を確認するとともに、検食等により把握した利用者・職員の意見を伝えるなど、食の充実に向けた取り組みを行った。

なお、平成30年1月からは、月・水・金曜日にみそ汁に変わりワークホーム高砂で作る納豆（なっとこちゃん）を提供した。

## V 利用者支援について

### 1 利用者支援

- ① 働くことを軸に、社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任を持てるような支援に取り組んだ。個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに添った関わりを大切にした。
- ② 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者と連携しながら取り組んだ。特に、一人暮らしの利用者については、通院付き添いや投薬、血圧・体重などの管理を行うとともに、保護者や本人の要望を受け歯科受診などの付き添いも積極的に行った。
- ③ 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・施設長（サービス管理責任者）・担当支援員同席で年2回（6か月に一度）実施した。内容は、作業面や生活面での支援に加え、GH体験利用や余暇の過ごし方なども盛り込んだ。そのため、GHを体験利用されるケースが増えている。
- ④ 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱にした充実した暮らしづくりの応援を積極的に行った。

### 2 あかりの家との連携

- ① あかりの家利用者のMさん、友愛の家利用者のYさん、Kさんを積極的に受け入れるとともに、利用者が混乱なくワークホーム高砂で働けるよう情報の共有に努めるとともに、必要な調整を行った。
- ② ひょうご発達障害者支援センタークローバーが主催する事業の会場として会議室を貸し出した。

## VI 人権擁護、虐待防止の取り組み

虐待防止については、一日3回の引継ぎ時間を活用し、虐待案件について施設長から講義するなど職員の意識向上に取り組んだ。また、職員間で話し合える環境、“第三者が見たらどうか”など、対応を責めるのではなく客観的に自分を見る冷静さを常々共感するように心がけた。また、人権擁護については、平成29年9月1日より、「ワークホーム高砂人権擁護委員会」を発足。同じく「ワークホーム高砂人権擁護委員会要領」を施行。職員一人ひとりが障害者の人権について考える機会を提供し、人権意識の向上をめざした。11月、2月に施設内研修やチェックリストによるセルフチェックを行うなど、自己を見つめ直す取り組みを行った。

## VII 防災

- 1 危険物管理 地下タンク及び地下埋設配管毎週点検記録表（消防署の指導にもとづき毎月曜日点検実施）
- 2 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 3 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 4 セキュリティー 防犯のため、サンヨーセキュリティーを本年度も活用した。
- 5 防災訓練 H29年8月、H30年1月に避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施（1月は消防署の立ち合い有）

## VIII 職員研修等（施設外研修）

月	研修名	場所	参加者名
5	兵庫県知的障害者施設協会定期総会	神戸	齋藤
6	播淡地区職員代表者会 高砂市危険物安全大会	神崎郡 高砂	桂 桂
7	全日本自閉症支援者協会総会 全国知的障害者関係施設長会議 兵庫県知的障害者施設協播淡地区職員研修会 全国社会就労センター総合研究大会 てんかん基礎講座 イトダフレスコ(株)新規機械導入検討視察	東京 東京 神崎郡 神戸 大阪 奈良県	齋藤 齋藤 齋藤、桂、岡田 齋藤、楠 大谷、中右 齋藤、楠、宮本、桂
8	播淡地区施設長・職員合同研修会 兵庫県知的障害者施設協会播淡地区施設長及び職員研修会	姫路	齋藤、木澤
9	兵庫県知的障害者施設協会播淡地区施設職員代表者会 兵庫県強度行動障害者支援者養成研修（基礎研修） 福祉の集い	神崎郡 神戸 神戸	桂 宮本 齋藤（保護者：金谷、光宗、福田 東西、今津）
10	兵庫県知的障害者福祉大会 相談支援・就業支援セミナー 権利擁護委員会・虐待未然防止研修	たつの市 横浜市 神戸	三輪（保護者：光宗） 齋藤 宮本
11	全日本自閉症協会研究大会 全国生産活動・就労支援部会職員研修会 兵庫県知的障害者施設協会播淡地区職員研修会	新潟 尼崎市 神崎郡	齋藤、西野 齋藤、西野 齋藤、桂、藤本
12	就労支援フォーラムNIPPON2017 日中活動支援部会全国大会 障害者就労支援研修会	東京 東京 加古川	桂 齋藤 齋藤、楠
2	兵庫県知的障害者施設協会施設長研修会 全日本自閉症支援者協会近畿ブロック情報交換会	神戸 神戸	齋藤 齋藤、宮本

## IX 資格取得等

資格名称	取得者氏名
強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	宮本 翔

## X 施設サービス評価、苦情解決

- 1 施設サービス評価  
本年度は受診せず

### 2 サービス苦情解決

年2回の保護者懇談会において保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、毎月の保護者会役員会や保護者会行事に施設長が参加し、保護者の要望等を積極的に聞くように努めている。  
食堂には「意見箱」を設置しご本人からの意見を聞けるようにしている。

苦情受付担当者：西野浩美

苦情解決責任者：今津房子（理事）

第三者委員：富士原 一成（前高砂市社協理事長）、高尾 剛一（あかりの家 前監事）



## X I 地域支援

事 項	内 容
1 施設見学	12月4日・5日 曾根小学校（4年生） 11月21日 東はりま特別支援学校（生徒40名、教員15名）
2 特別支援学校実習	東はりま特別支援学校2名（延べ10日）

## X II 地域交流

### 1 人権学習

12月4日・5日の2日間にわたり、曾根小学校4年生4学級の児童が今年も人権学習のために当施設を訪れた。2日間4回に分け、付き添いの教諭や児童と利用者との交流や作業体験を行っていただき、より実感のある人権教育の促進に寄与した。

### 2 機関紙の発行

毎月、保護者通信を「月刊ワークホームだより」として発行し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。また、地域の方や関係者にも配布した。（配布先：利用者（保護者含む）、地域の関係者や協力企業、理事・評議員等の関係者）

### 3 ホームページの更新

ワークホーム高砂のホームページを平成27年度に県立総合リハセンター内の重度障害者在宅就労者の会 e-work に依頼し作成し、本年度は「月間ワークホームだより」を毎月掲載更新した。メンテナンスについては、平成29年7月1日から平成30年6月30日までの期間で再契約した。

## X III 保護者会活動

### 1 年間活動について

#### (1) 保護者会主催事業

①保護者会総会 ②WH環境整備、工場清掃 ③父親の会 ④クリスマス会（忘年会）⑤保護者研修会  
⑥一年を振り返る会

#### (2) ワークホーム高砂との共催行事

①保護者参観 ②保護者懇談会

#### (3) 本部・企画委員会（役員会）

①毎月1回開催

### 2 年間行事実績

	日 程	会議・行事等	内 容	参加数
5月	5月21日（日） 10:00～11:30	《保護者会総会》	・平成29年度事業計画、予算の審議と議決	24名
	13:00～14:30	○第1回本部・企画委員会	・環境整備行事についてなど ・保護者研修会など	16名
6月	6月18日（日） 10:00～11:30	《第1回環境整備、工場清掃》	・駐輪場の草引き、工場の清掃 ・昼食を摂りながら懇談	37名
	11:30～12:30 13:00～14:30	第2回本部・企画委員会	・研修会について 等	16名
7月	7月16日（日） 10:00～11:30	《第2回環境整備、工場清掃》	・駐輪場の草引き、工場の清掃 ・昼食を摂りながら懇談	23名
	11:30～12:30 13:00～14:30	※6月行事に参加できなかった人に参加を促した 第3回本部・企画委員会	・保護者研修会について など	13名

8月	8月 8日(火) 9日(水) 10日(木) 11日(金)	保護者参観	・作業風景の見学など	31 家族 35名
	8月27日(日) 10:00~12:00	第4回本部・企画委員会	・保護者研修会、レク行事、父親の会、など	15名
9月	9月24日(日) 10:00~18:00	第5回本部・企画委員会	・親子レク、クリスマス会など	16名
9月	9月 5日(火) 6日(水) 7日(木) 11日(月) 13日(水) 14日(木) 15日(金) 22日(金)	《保護者懇談会(前期)》	○保護者がWH職員と利用者の日常について話し合うとともに、個別支援計画の確認を行った	延べ 44名
	10月 8日(日) 10:00~12:00	第6回本部・企画委員会	・親子レク、研修会、クリスマス会など	16名
	10月22日(日) 9:30~13:00	《親子カレー大会、父親の会》	・父親の会は雨天で草刈りを中止 ・親子でカレー作り、親子で昼食会を楽しんだ。	28 家族 60名
	13:00~15:00	第7回本部・企画委員会	・保護者研修会、クリスマス会など	16名
	11月19日(日) 9:30~11:30	《保護者研修会》	・五色精光園の見学	26名
	12月17日(日) 12:00~13:30	《クリスマス会(忘年会)》	・クリスマス会、マジックショー、ビンゴゲームなど ワークホーム高砂食堂にて実施	59名
12月	14:00~16:00	第8回本部・企画委員会	・一年を振り返る会など	14名
	1月14日(日) 10:00~12:00	第9回本部・企画委員会	・一年を振り返る会、役員改選など	16名
2月	2月25日(日) 10:00~12:00	《一年を振り返る会》	・スライド写真の上映、保護者による活動の振り返りなど	43名
	13:00~15:00	第10回本部・企画委員会	・次年度活動についてなど	15名
	2月13日(火) 17日(土) 19日(月) 21日(水) 22日(木) 25日(日) 26日(月) 27日(火) 28日(水) 3月 1日(木)	《保護者懇談会(後期)》	○保護者がWH職員と利用者の日常について話し合うとともに、個別支援計画の確認を行った	延べ 43名
3月	3月11日(日) 10:00~12:00	第11回本部・企画委員会	・次年度総会に向けた準備など	14名
4月	4月16日(日) 10:00~12:00	第12回本部・企画委員会	・総会の準備など	15名

## XIV 総務関係

### 1 職員の採用・退職・異動（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

#### (1) 採用

・嘱託職員	支援員	1人（平成29年10月 1日付）
・嘱託職員（パートからの身分変更）	支援員	1人（平成29年 4月 1日付）
・嘱託職員	支援員	1人（平成30年 2月 1日付） ←伏木さん
・パート職員	支援員補助	1人（平成29年 4月 1日付）

#### (2) 退職

・嘱託職員	支援員	1人（平成29年12月31日付）
-------	-----	------------------

### 2 職員構成

（2018. 3. 31現在）

身分・所属 \ 職種		施設長	医 師	支援員	作業 支援員	支援員 補助	事務員	看護師	計
正規・嘱託 職員	男	1		7	1				9
	女			4			1		5
	計	1		11	1		1		14
補助職員 (パート)	男					1			1
	女					4		1	5
	計					5		1	6
合 計		1	(1)	10	1	6	1	1	20 (1)

※1 ( ) は嘱託医師 ※2 年度末に退職する職員を含めて記載

### 3 職員年齢構成

身分・所属 \ 年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
正規・嘱託 職員	5	4	2	3		14
補助職員				4	2	6
合 計	5	4	2	7	2	20

# 2017(H. 29)年度 グループホーム(共同生活援助)事業報告書

## 1 施設の名称、定員(現員)及び所在地

名称	定員(現員)	所在地
希望山荘日笠	7人(6人)	兵庫県高砂市曾根町1704-4
オリーブの家	7人(6人)	兵庫県高砂市阿弥陀町魚橋375-16
友愛の家	6人(5人)	兵庫県高砂市曾根町1704-5

## 2 利用者(入居者)の状況

《希望山荘日笠》

(H. 30. 3. 31現在)

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
女性	48	A	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H. 6. 4. 1~
男性	69	B1	区分4	こころね(就労B)通所	高砂市	H. 29. 5. 30~
男性	58	A	区分5	あすなる学園(生活介護)通所	高砂市	H. 14. 7. 1~
女性	56	A	区分3	こころね(就労B)通所	高砂市	H. 27. 6. 15~
男性	33	A	区分4	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H. 27. 10. 1~
男性	34	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H. 27. 10. 1~

《オリーブの家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
男性	51	B1	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H. 6. 4. 1~
男性	44	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H. 25. 11. 1~
男性	45	A	区分4	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	H. 27. 8. 1~
男性	47	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H. 27. 5. 1~
女性	37	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H. 28. 4. 1~
男性	44	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	播磨町	H. 28. 9. 1~
男性	33	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H. 29. 4. 1~

《友愛の家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日
男性	34	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H. 29. 4. 1~
男性	32	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H. 29. 4. 1~
男性	22	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H. 29. 4. 1~
男性	37	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	姫路市	H. 29. 8. 1~
男性	47	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	加古川市	H. 29. 9. 1~

利用者の平均年齢=42. 8 歳

## 3 職員

(H. 29. 4. 1~H. 30. 3. 31)

職種	常勤・非常勤・兼務等	性別	年齢
管理者	あかりの家副施設長兼務	男性	58
サービス管理責任者	管理者兼務		
生活支援員兼世話人	常勤	女性	47
	常勤	男性	30
	常勤	男性	30
	常勤	男性	30
	常勤	女性	30
	常勤	男性	25
	常勤	男性	23
	常勤	女性	22
世話人	非常勤(パート)	女性	57

#### 4 運営について

##### (1)新規グループホーム「友愛の家」の安定的な運営

障害者支援施設あかりの家を利用していた重度の自閉症者が地域の中で必要な支援を受けながら安心して暮らせるグループホームとして、2017年4月にオープンした「友愛の家」の安定的な運営を図った。

開設当初は利用者3名でスタートしたが、9月には5名(定員6名)となるよう利用促進を図った。

##### (2)安全で安心なホームづくり

夜間の安全を守るための「宿直」及び「夜勤」の体制については、あかりの家やワークホーム高砂の協力を得て、法人全体で支える仕組みを本年度も継続し、職員間の連携を更に強めながら、安全で安心な支援体制を確保した。また、定期的な生活器具の安全点検や避難訓練を実施(2018年2月)するなど、安全で安心なホームづくりに取り組んだ。

##### (3)入居者の健康管理の充実

入居者の健康管理の充実を図るため、定期的な医療機関への受診(歯科、耳鼻科、内科など)に加え、成人病予防などを意識した食事の提供、適度な運動の確保などに努めた。

##### (4)入居者の自由時間の充実など

豊かで広がりのある暮らしを創るため、入居者の自由時間の充実、特に休日の過ごし方について、できるだけ多様な過ごし方が体験出来るよう努めるとともに、外出機会を積極的に設けた。具体的には、日常的に買物や散歩に出かけたり、春のお花見やクリスマス会などの季節行事を実施するとともに、11月5日には関係者を招いて「手作りベーコンパーティー」を開催した。

##### (5)体験宿泊の継続実施

グループホーム希望山荘日笠の空き部屋を活用し、地域の在宅障害者が親元を離れて生活体験をする「体験宿泊」を積極的に位置づけ、在宅障害者の地域生活を支援した。6人の利用者が述べ125日利用した。

##### (6)支援員、世話人の専門性の向上に向けた取り組み

入居者の生活の質の向上や安全で安心な生活づくりのためには、支援員や世話人の専門性の向上が欠かせないことから、職員の資質向上のための研修機会を積極的に設けた。